

新
刑
法
議
釋

現行刑法
刑事訴訟法

252
887

特 14
203



官本歸一

註釋

現行
刑法
刑事訴訟法

新刑法註釋

松雲堂出版

明治
40 5 8
丙交

凡 例

- 一 本書ハ簡單平易ヲ主トシ假名ヲ附シ以テ凡テノ人ノ購讀ニ便ナラシム
- 一 刑法ニ關スル法律大家ノ著ハ實ニ尠少ナラザルナリ然レドモ此等ハ主トシテ法律專攻者ノ爲ニ講述セラレ一般ノ人ノ閱讀ニ適セズ是レ本書ヲ著ハセシ所以ナリ
- 一 本書ハ倉遑稿ヲ終リ十分校訂スルニ暇アラ

ズ故ニ或ハ誤謬缺漏等無キヲ保セズ若シ此
 等ヲ發見セバ漸次補缺訂正スルコト、セリ

著 者 識

目 次

第一編 總 則

第一	第一章	法例	一
第二	第二章	刑	一〇
第三	第三章	期間計算	二〇
第四	第四章	刑ノ執行猶豫	二二
第五	第五章	假出獄	二五
第六	第六章	時效	二七
第七	第七章	犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	三〇
第八	第八章	未遂罪	四一
第九	第九章	併合罪	四三
第十	第十章	累犯	五一
第十一	第十一章	共犯	五五
第十二	第十二章	酌量減輕	六一
第十三	第十三章	加減例	六三

第二編 罪

第一章	皇室ニ對スル罪	六六
第二章	内亂ニ關スル罪	六八
第三章	外患ニ關スル罪	七三
第四章	國交ニ關スル罪	七七
第五章	公務ノ執行ヲ妨害スル罪	八一
第六章	逃走ノ罪	八四
第七章	犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪	八七
第八章	騷擾ノ罪	九一
第九章	放火及ヒ失火ノ罪	九三
第十章	溢水及ヒ水利ニ關スル罪	一〇二
第十一章	往來ヲ妨害スル罪	一〇五
第十二章	住居ヲ侵スル罪	一〇八
第十三章	祕密ヲ侵スル罪	一一〇
第十四章	阿片煙ニ關スル罪	一一三
第十五章	飲料水ニ關スル罪	一一五

第十六章	通貨偽造ノ罪	一一八
第十七章	文書偽造ノ罪	一二一
第十八章	有價證券偽造ノ罪	一二九
第十九章	印章偽造ノ罪	一三一
第二十章	偽證ノ罪	一三六
第二十一章	誣告ノ罪	一三八
第二十二章	猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪	一四〇
第二十三章	賭博及ヒ富籤ニ關スル罪	一四六
第二十四章	禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪	一四九
第二十五章	瀆職ノ罪	一五一
第二十六章	殺人ノ罪	一五七
第二十七章	傷害ノ罪	一六〇
第二十八章	過失傷害ノ罪	一六四
第二十九章	墮胎ノ罪	一六六
第三十章	遺棄ノ罪	一六九
第三十一章	逮捕及ヒ監禁ノ罪	一七一
第三十二章	脅迫ノ罪	一七二
第三十三章	略取及ヒ誘拐ノ罪	一七五

目次	四
第三十四章	名譽ニ對スル罪……………一七九
第三十五章	信用及ヒ業務ニ對スル罪……………一八一
第三十六章	竊盜及ヒ強盜ノ罪……………一八二
第三十七章	詐欺及ヒ恐喝ノ罪……………一八八
第三十八章	横領ノ罪……………一九三
第三十九章	贓物ニ關スル罪……………一九五
第四十章	毀棄及ヒ隱匿ノ罪……………一九六

目次 (終)

新刑法註釋

第一編 總則

第一章 法例

法例トハ法律ヲ適用ス可キ例規ニシテ本法效力ノ及ブ可キ範圍ヲ定ム換言スレバ則チ刑法ノ人ニ關スル效力時ニ關スル效力場所ニ關スル效力或ハ犯罪後法律ノ變更アリタル場合ノ處分等ヲ定ム

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

本條第一項ハ我刑罰權ノ及ブ可キ土地ノ區域ニ關スル原則ヲ規定シタルモノニシテ其主旨ハ何人モ我帝國内ニ在テ罪ヲ犯シタルトキハ我刑法ノ支配ヲ受クベキモノナルコトヲ定ム抑モ刑罰權ノ及ブ可キ範圍ニ付テ古來種々ノ說アリ屬人主義屬地主義折衷主義保護主義是レナリ而シテ我刑法ハ本條ニ於テ屬地主義ヲ採レリ

本條ニハ何人ヲ問ハズトアレドモ之ニ例外アリ左ニ掲

一 天皇 天皇ハ國ノ元首ニシテ一切ノ國法ハ凡テ天皇ノ制定セラレ給フ所ナレバ其國法ヲ以テ天皇ヲ支配シ能ハサルヤ當然ナリ

二 外國ノ君主大統領並ニ其家族從者 是等ハ國際慣例上認めラレタル例外ニシテ國家相互ノ親睦ヲ企圖スルニ基クナリ

三 信任セラレタル外國ノ交際官並ニ其家族日本人ニ非ザル其使用人

四 承認ヲ經テ入り來レル外國ノ軍隊軍艦 是等ハ國際公法上凡テ治外法權ヲ有スルヲ以テ日本國法ノ適用ヲ受ケズ

五 帝國議會ノ議員

本條第二項ハ帝國外ニ在ル帝國船舶内ノ犯罪ニ付テモ亦タ我刑法ヲ適用ス可キ必要アルヲ以テ此規定ヲ設ケタリ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

- 一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪
- 二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪
- 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四 第四百八條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 五 第五百十四條第五百五十五條第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ノ罪
- 六 第六百六十二條及ヒ第六百六十三條ノ罪
- 七 第六百六十四條乃至第六百六十六條ノ罪及ヒ第六百六十四條第二項第百六十五條第二項第百六十六條第二項ノ未遂罪

本條列記ノ犯罪ハ我帝國ニ關シ重大ナル犯罪ナルヲ以テ其犯人ノ國籍如何ヲ問ハズ之ヲ罰スルハ國家自衛權ノ將ニ然ラザルヲ得ザル所ナリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

- 一 第八八條第九條第一項ノ罪第八八條第九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪
- 二 第一百十九條ノ罪
- 三 第一百五十九條乃至第一百六十一條ノ罪
- 四 第一百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
- 五 第一百七十六條乃至第一百七十九條第一百八十一條及ヒ第一百八十四條ノ罪
- 六 第一百九十九條第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
- 八 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪
- 九 第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

- 十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
- 十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
- 十二 第二百三十條ノ罪
- 十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪
- 十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
- 十五 第二百五十三條ノ罪
- 十六 第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

本條ハ外國ニ在ル内外國人ニ關スル規定ナリ

一國ノ法律ハ其國土ヲ支配スルト共ニ其臣民ヲ支配スルモノナレバ假令外國ニ在留スル者ハ日本國民タル分限ヲ喪失セザル以上ハ終始我國法ヲ遵奉スベキ義務アルハ勿論ナリ故ニ外國

ニ在ル帝國臣民ニシテ本條列記ノ罪ヲ犯シタルトキハ本條ニ依リ處斷セラル、ナリ
 外國人外國ニ在リテハ我法律ヲ遵奉スベキ義務ナシト雖モ若シ本條記載ノ罪ヲ犯セル場合ニ
 之ヲ罰スル能ハズトセバ帝國ノ安寧ハ之ヲ維持スルヲ得ズ是レ本條第二項ヲ設ケタル所以ニ
 シテ畢竟保護主義ニ基キ我臣民ヲ保護セント欲ス

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員
 ニ之ヲ適用ス

一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二 第一百五十六條ノ罪

三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七條ノ罪及ヒ第

百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル罪

註釋

本條ハ公務員ガ職務ニ關スル罪ヲ犯シタル場合ヲ規定シタルモノナリ
 公務員トハ官吏公吏法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ而シテ帝國外ニ在
 ル公務員ハ通例全權大使公使辦理公使代理公使公使館書記官書記生領事ノ如キ又ハ列國會議

ニ派遣セラレタル委員ノ如キ其重ナル者トス之等ノ者ガ其派遣國ニ於テ職務上ニ關スル罪ヲ
 犯シタルトキハ本條ニ依テ處罰スルコトヲ規定シタルモノナリ則チ前條ハ普通臣民ニ對スル
 效力ニシテ本條ハ公務員タル特別資格アル臣民ニ關スル規定ナリ

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行為ニ付キ更ニ處
 罰スルコトヲ妨ケス

但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタ
 ルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ外國ノ法律ガ一日罰シタル者ト雖モ我法律ハ更ニ之ヲ處罰シ得ルコトヲ規定ス
 外國人又ハ我帝國ノ臣民若クハ公務員ガ外國ニ於テ我法律ニ規定スル罪ヲ犯シ其在留國ニ於
 テ有罪ノ確定判決ヲ受ケタルトキト雖モ我法律ニ依リ更ニ處罰スルノ必要アリ是レ他ナシ外
 國ノ法律ハ自國ノ利益ヲ標準トシテ制定サル、モノナレバ斯ル法律ニ依テ處罰サル、モ我國
 家ノ刑罰權ノ必要ヲ充タシ得ザルヤ明カナレバナリ故ニ外國ニ於テ既ニ確定判決ヲ受ケ刑ノ
 一部又ハ全部ノ執行ヲ終リタル後ト雖モ我法律ニ因リ言渡シタル刑ヲ執行スルコトヲ得ベシ

然レドモ是レ甚ダ酷ニ過グル恐レアルヲ以テ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ト規定セリ

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

釋義 本條ハ刑法ノ時ニ關スル規定ナリ

抑モ刑法ハ實施前又ハ廢止後ノ事實ヲ支配セザルヲ原則トス蓋シ吾人臣民ハ其日々ノ行動ニ於テ現ニ存スル法律命令ニ禁止サレタルヤ否ヤヲ見テ其爲スベキ所爲ス可カラザル所ヲ決スベキナリ今日別ニ罰則ナキ行爲シテ明日效力ヲ生ジタル法令ノ爲ニ刑罰ヲ受クルコトアラバ臣民ハ遂ニ適從スル能ハザルニ至ルベシ是レ古來ヨリ刑法不遑既往ノ原則ノ存スル所以ナリ然レドモ此原則ニ例外アリ即チ刑法ノ改正アリタル場合ニ行爲ノ當時ノ刑法ト裁判當時ノ刑法トヲ比較シテ新法輕キトキハ既往ノ行爲ニ遡リテ之ヲ適用スベキモノトス舊此輕キニ從フテ處斷スルハ法律ノ恩點ニシテ他ニ別ニ理由アルニアラズ

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事

スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

釋義 本條ハ公務員及ヒ公務所トハ如何ナルモノナルヤヲ規定ス

本條ハ公務員ニ關スル規定ナリ

舊刑法ハ官吏及ビ官署ノミニニ關スル規定ヲ設ケタルヲ以テ明治三十三年法律第百號ヲ以テ公吏及公署ハ刑法上之ヲ官吏及官署ト同視スル旨ヲ規定シ其欠缺ヲ補綴シタリト雖モ其他ノ職員ニシテ刑法上官吏ト同視スベキモノ亦タ尠ナカラズ然レドモ之等ノ職員ノ種類ヲ列擧スルコトハ不能ニ屬スルヲ以テ新刑法ハ概括的ニ法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フト規定セリ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

釋義 本條ハ本法總則ハ刑罰法令一般ニ適用ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

蓋シ特別法令ハ時勢ノ變遷ニ從ヒ改正變更ノ必要アルヲ以テ改廢常ナキ特別法令ニ規定ナキ

事項ニ付テハ容易ニ改廢ス可カラザル本法總則ノ規定ヲ適用スルモノトセリ但其法令ニ特別ノ規定アルトキ例ヘバ本法ハ刑法減輕ノ例ヲ用ヒズト云ヘル明文ノ如キヲ設ケタル時ニ限り本法總則ノ適用ヲ排斥ス

第二章 刑

第九條

死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

本法ハ刑名ニ關スル規定ニシテ主刑及ビ附加刑ノ二種ヲ示ス

死刑ハ重罪ノ主刑中生命ヲ奪フモノニシテ最モ重刑トナス新刑法ハ舊刑法ト同ジク此極刑ヲ置キシハ我國今日ノ狀況ハ未ダ之ヲ廢スルヲ許サズ又之ヲ從來ノ實驗ニ徵シ或ハ理論ニ鑑ミルモ刑トシテ充分ノ效果アルモノト認メタレバナリ

舊刑法ハ附加刑トシテ罰金、監視、剝奪公權、停止公權等ノ規定アルモ新刑法ハ罰金ハ本刑ノ罰金ト何等區別スル必要ナク又監視ハ反テ弊害アルモノト認メ其剝奪公權、停止公權ノ如キハ特別法ニ讓ルヲ可トスルノ理由ニヨリ本法ハ單ニ沒收ノ附加刑ヲ認ムルノミ

第十條

主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ

禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルト

キハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

本條ハ主刑ノ輕重ヲ定ムル標準ヲ示ス

主刑ノ輕重ハ第九條規定ノ順序ニ依ルコトヲ明カニス而シテ本條第一項ハ異種ノ刑ニ付テ規定ス今之ニ付テ見ルニ死刑ヲ以テ最重ノ主刑トシ懲役、禁錮、罰金、拘留ハ順次之ニ次ギ科料ヲ以テ最輕ノ刑トセリ

然レドモ場合ニヨリ禁錮ニシテ懲役ヨリ重キモノアルコトヲ示ス即チ無期禁錮ト有期懲役トハ無期禁錮ヲ以テ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重

シトスルナリ

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトス例ヘバ有期十五年ノ懲役ハ有期十年ノ懲役ヨリ重ク千圓ノ罰金ハ五百圓ノ罰金ヨリ重キガ如シ

若シ長期又ハ多額ガ同ジクシテ其短期又ハ其寡額ガ長短多寡アルトキ例ヘバ五年以上十五年以下ノ有期懲役ト八年以上十五年以下ノ有期懲役トハ後ヲ以テ重シトシ又百圓以上千圓以下ノ罰金ト三百圓以上千圓以下ノ罰金トハ是レ亦タ後ヲ以テ重シトスルガ如シ

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

本條ハ死刑ノ執行ニ關スル規定ナリ

昔時死刑ハ他戒ノ目的ヲ以テ公開ノ場所ニ於テ公衆ヲシテ其執行ヲ觀覽セシメタリ然レドモ世人ガ屢々斯ル極刑ヲ觀ルニ於テハ殺伐ノ氣風ヲ養成シ反テ死刑ヲ輕視スルノ虞レアリ是レ本條ニ於テ監獄内ニ於テ執行スルコトヲ規定セル所以ナリ

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

本條ハ懲役ニ關スル規定ナリ

第一項ハ懲役ノ期限ニ關スル規定ニシテ懲役ニハ無期ト有期トノ二種アルコトヲ定メタリ
第二項ハ懲役ノ執行ニ關スル規定ニシテ懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服セシムルコトヲ定メタリ

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

本條ハ禁錮ニ關スル規定ナリ

禁錮モ懲役ト同ジク無期有期ノ二種アルコトヲ定ム只其執行方法ハ懲役ハ定役ニ服スルモ禁錮ハ定役ニ服セザル差異アルコトヲ定ム

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコ

トヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

新刑法ハ懲役及ヒ禁錮ノ刑ヲ一月以上十五年以下ト規定セルヲ以テ加重ノ結果其刑期十

五年以上ニ又減輕ノ結果其刑期一月以下ニ處スベキトキハ如何ナル刑名ヲ附スベキヤ疑ナキ能ハズ茲ニ於テ本條ヲ設ケ斯ル場合ニハ矢張り懲役及ビ禁錮ノ刑ニ處スベキモノトセリ故ニ特別ノ場合ニ於テ刑期十五年以上一月以下ノ懲役又ハ禁錮アリ得ベキナリ

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

釋義 本條ハ罰金刑ニ關スル規定ナリ

罰金ハ貳拾圓以上トシ其最多額ヲ示サザルハ蓋シ罰金刑ニハ往々其最多額ヲ示サザル場合アルヲ以テナリ例ヘバ新刑法第百五十三條ノ如ク其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處スト規定スルガ如ク其他收稅ヲ目的トスル特別法令ニ於テ罰金額一定セザルモノ多クナレバナリ

本條第二項ハ前條ト同一ノ趣旨ニ基クモノニシテ即チ二十圓以下ノ罰金アルコトヲ示ス

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘留ス

釋義 本條ハ一讀明瞭ナルヲ以テ註釋ヲ省ク

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

釋義 本條モ亦タ一讀明瞭ニシテ疑ヒナキヲ以テ註釋ヲ省ク

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

本條ハ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハザルトキハ如何ナル方法ヲ以テ其目的ヲ達スルヤニ付テ規定ス

第一項第二項ハ罰金又ハ科料ヲ完納スル能ハザル者ハ一定ノ期間勞役場ニ留置シテ一定ノ勞役ニ就カシムコトヲ定ム蓋シ罰金又ハ科料ハ金額ヲ徵收スル刑ナレバ犯人ニシテ財産ヲ有セザルトキハ其目的ヲ達スルコト能ハズ斯ル場合ニ二ノ方法アリ一ハ舊刑法ノ採レル換刑處分ニシテ一ハ新刑法ノ採用スル所ナリ蓋シ換刑處分ハ罰金ヲ以テ禁錮又ハ拘留ニ換フル法制ナレバ被告人ハ徒ニ獄中ニ呻吟スルニ止マリ國家ハ因テ却テ幾分ノ損耗ヲ來シ金刑ノ制度ニ反ス之ニ反シテ本條ノ採レル方法ニ依レバ罰金又ハ科料ヲ完納シ能ハザル者ヲシテ換ルニ一定ノ期間其自由ヲ拘束スルト同時ニ勞役ニ從事セシメ國家ハ其利得ノ幾分ヲ以テ罰金又ハ科料

ニ充ツルモノナレバ其前者ニ優ルヤ言フ俟タズ

舊刑法ハ罰金又ハ科料ヲ完納スルト之ヲ完納セズシテ換刑處分ヲ受クルトハ本人ノ自由ニ任ス其結果財産ヲ有スル者ト雖モ往々之ヲ完納セズシテ換刑ヲ請求スル者ナキニ非ズ是レ金刑ノ目的ヲ達スル所以ニアラズ新刑法ハ此制度ヲ非トシ財産アル者ニハ必ず金錢ヲ納メシメ財産ナキ者ニ限り始メテ之ヲ留置ノ處分ニ換フルコト、セリ
科料ハ之ヲ併科スルヲ以テ各科料ニ付拘留日數ヲ定ムルトキハ非常ニ長期ニ達スルノ虞レナキニ非ズ故ニ第三項ニ於テ科料ヲ併科シタル場合ト雖モ拘留日數ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ズトセリ

舊刑法ハ罰金一圓ヲ一日ニ打算シテ禁錮一日ニ換フ云々トアリテ罰金不完納者ハ罰金一圓ニ付テ禁錮一日ニ換刑セラルル規定ナリシモ本條ハ之ヲ改正シテ罰金言渡ノ際其判決ニ之ヲ完納セザルトキハ一日以上一年以下ノ範圍ニ於テ罰金額ノ多寡ニ拘ハラズ裁判所ハ留置スベキ日數ヲ定メテ言渡スベキモノト爲シタリ

舊刑法ハ罰金ヲ一月内ニ完納セザル者ハ換刑處分ヲ爲スコトヲ定ムレドモ確定裁判後罰金ヲ完納スル能ハザルコト明白ナルニ尙ホ一ヶ月ヲ俟ツハ甚ダ謂ハレナキモノト云ハザルヲ得ズ

故ニ本條第五項ハ裁判確定後ハ何時ニテモ本人ノ承諾アラバ罰金ニ換フルニ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得トセリ

第六項以下ハ意義明ニシテ一點ノ疑ヒナキヲ以テ説明ヲ省ケリ

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行為ヲ組成シタル物
 - 二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物
 - 三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物
- 沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

本條ハ沒收ニ關スル規定ナリ

- 一 犯罪行為ヲ組成シタル物トハ法律ニ於テ所有ヲ禁ジタル物ヲ云フニ外ナラズ例ヘバ政府ノ許可ヲ得ズシテ阿片煙ヲ所持スルハ法ノ禁ズル所ナルニ若シ其禁ヲ犯シタル者アリトスレバ其阿片煙ハ犯罪行為ヲ組成シタル物トシテ沒收セラル、ナリ
- 二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物

犯人ガ罪ヲ犯スニ付キ直接ニ使用シ又ハ使用セントシタル物件ヲ謂フ例ヘバ殺人ノ用ニ供シタル兇器棍棒ノ如キモノ是レナリ

- 三 犯罪行為ヨリ生シタル物トハ例ヘバ行使ノ目的ヲ以テ製造シタル偽造貨幣紙幣又ハ偽造ノ文書ノ如キモノニシテ其物件ヲ生ゼシムル行為夫レ自體ガ犯罪トナルトキニ生シタル物件ヲ云フ

犯罪行為ニ因リ得タル物トハ犯罪ヲ行ヒ取得シタル物件ヲ云フ例ヘバ竊盜ニ因テ得タル金品其他收賄罪ニ因リ得タル金品ノ如キヲ云フ

以上ニ列記シタル物件ハ之ヲ沒收スト雖モ其物ニシテ犯人以外ノ者ニ屬スルトキハ之ヲ沒收スルヲ得ズ故ニ狩獵法違犯ニ因テ獲タル鳥獸ノ類又ハ犯人ノ所有ニ屬スル物ハ沒收スルコトヲ得ルモ犯人ガ竊盜ニ因テ得タル金錢物品ノ如キハ他ニ所有者存スルガ故ニ之ヲ沒收スルコトヲ得ズ

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレ

ハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收

ハ此限ニ在ラス

本條ハ拘留又ハ科料ニ該當スル犯罪ニハ沒收刑ヲ科セザルコトヲ規定セリ

是等ノ犯罪ハ事態輕微ナルガ故ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外沒收刑ヲ科セザルコト、セリ然レドモ犯罪行為ヲ組成スル物件ハ絶對的ニ社會ニ其存在ヲ許サルヲ以テ別段ノ規定アルト否トニ拘ハラズ本條但書ニ依リ之ヲ沒收スルコトヲ得ルモノトセリ

第二十一條 未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

本條ハ未決拘留ノ日數ヲ本刑ニ算入シ得ルコトヲ規定ス

未決拘留ノ日數ヲ刑期ニ算入スル法制ハ現時一般ニ學說ノ認ムル所ナリ蓋シ刑事訴訟法ノ進行中被告人ノ拘留ヲ要スル場合極メテ多シ稍々重大ナル事件ニ在リテハ審理ノ日數久キニ亘リ未決拘留ノ日數亦タ從テ長ク時ニ數年ニ亘ルコトアリ而シテ此不幸ヲ救済スルノ方法ハ即チ未決拘留日數ヲ本刑ニ算入スル方法ニシテ本條ノ採リタル所ナリ

第三章 期間計算

本章ニ於テ刑ノ期間計算ト時効ノ期間計算トヲ定ム

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

本條ハ期間ノ計算法ヲ定ム

本條ハ意義明瞭ナルヲ以テ説明ヲ要セズ只日ヲ以テ期間ヲ定メタルトキハ其計算法如何ニ付テ一言セン刑法所謂一日トハ日ノ出ヨリ日沒後ヲ云フニ非ズシテ一時間ヲ二十四合シタルモノヲ一日ト稱スルニ似タリ而シテ其起算點ニ付テモ亦タ刑法ガ之ヲ示サルヲ以テ民法ノ規定ニ依リ即時ヨリ起算シテ二十四時ヲ積ンデ一日トセザル可カラズ新刑法第二十四條ハ之ガ例外ニ外ナラス

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

本條ハ刑期ノ起算點ノ標準ヲ規定シタルモノナリ

舊刑法ハ第五十條ニ刑ハ裁判確定後ニ非ザレバ執行セザルコトヲ規定シ又第五十一條ヲ以テ

刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルコト、ナシ上訴ノ場合ニ關シ詳細ノ規定ヲ設ケタルモ新刑法ハ之等ノ規定ヲ删除シテ本條第一項ニ於テ刑期ノ起算日ヲ裁判確定ノ日ト改メタリ是レ一方ニ裁判確定後ニ非ザレバ刑ヲ執行セザルコトヲ示シ他ノ一方ニ上訴ニ由テ以テ萬一ノ僥倖ヲ射ントスルノ弊ヲ防遏セントスルモノナリ

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

本條ハ意義明瞭ナルヲ以テ説明ヲ省ク

第四章 刑ノ執行猶豫

國家ガ刑法ヲ制定シテ犯罪ヲ訴追シ科刑スルハ畢竟社會團體ノ秩序維持ニ在リ之レ以外ニ科刑ノ目的ヲ求ムル能ハズ果シテ然ラバ犯罪人ハ悉ク之ヲ處罰スルニ非ズシテ社會ノ秩序維持ニ必要ナル犯人ヲ罰シ其必要アラザル犯人ハ罰セズシテ止ムモ可ナリ而シテ此種ノ犯人ハ多ク初犯者ニ於テ之ヲ見ル是レ法律ガ刑ノ執行猶豫ナル制度ヲ設ケ犯罪ハ毫モ假借ナク罰

スルコトヲ示スト同時ニ一方ニ於テハ一定ノ條件ノ下ニ刑ノ執行ヲ猶豫シテ以テ膺懲ノ實ヲ擧ゲントス

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

- 一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

本條ハ執行猶豫ノ條件ヲ定ム

第一號第二號ハ犯人ノ經歷ニ關スル條件ニシテ第一號ハ前ニ禁錮ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ニ非ザレバ此恩典ヲ與ヘザルコトヲ定メ第二號ハ之ガ例外ヲ認メ即チ前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以

上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ニハ刑ノ執行猶豫ヲ與フルコトヲ定メタリ

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス

可シ

- 一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

- 三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

註釋 本條ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ヲ規定ス元來刑ノ執行猶豫ノ制度ヲ設ケタルハ主トシ再犯豫防ノ策ニ出ツ即チ一定ノ條件ヲ具備スル犯人ニ刑ヲ執行シテ反テ他ノ惡性ニ感染セシメ犯罪ヲ再ビスルノ虞レヲ杜絶セントスルニ外ナラズ然ルニ犯人ニシテ本條掲グルガ如ク犯罪ヲ再ニ犯シ若クハ犯シタルコトアレバ之等ノ犯人ニ刑ノ執行猶豫ヲ與フル必要ナク寧ロ圍圖ニ投ジテ膺懲ノ實ヲ學ゲザル可カラズ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間

ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

註釋 本條ハ執行猶豫ノ效果ヲ規定ス

是レ刑ノ執行猶豫ノ制度上最モ主要ナル規定ニシテ一旦不幸ニシテ有罪者トナルモ其後一定ノ期間謹慎ノ狀況ニ在ルトキハ法律ハ之ヲ以テ全ク改換シタルモノトシ其言渡サレタル刑ハ當然效力ヲ失ヒ初メヨリ刑ノ言渡ヲ受ケザルト同一ノ效果ヲ生ズルモノトセリ

第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑

ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

註釋 本條ハ假出獄ヲ許ス條件ヲ規定ス

一旦有罪者トシテ刑ヲ執行スルモ改悛ノ狀アルトキハ永ク在監セシムル必要ナシ若シ假出獄ヲ許サルニ於テハ遂ニ出獄ノ期ナキト又ハ出獄期ノ長キニ從テ犯人ハ自暴自棄ノ念ヲ起シ

到底治獄ノ精神ヲ達スルコト能ハザルニ至ル是レ本條ヲ設ケシ所以ナリ

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

- 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 假出獄前他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ
假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

本條ハ假出獄ヲ取消スコキ場合ヲ規定ス

本條一二三四ノ規定ハ別ニ説明ヲ要セズ末項假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ何故出獄中ノ

日數ヲ刑期ニ算入セザルヤト云フニ若シ假出獄ノ恩典ニ浴セザレバ犯人ハ獄中ニ於テ自由ヲ拘束セラレザル可カラザルニ此恩典ヲ與ヘラレタル結果自由ノ生活ヲ爲シ得タルナリ故ニ此恩典ニ違背シタルトキハ其制裁トシテ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セザルコト、セリ

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ
本條ハ拘留又ハ罰金科料不完納ノ爲メ換刑處分ヲ受ケタル者ニ對スル執行免除ノ規定ナリ

本條ハ微罪ニ付キテハ假出獄ニ一步ヲ進メテ情狀ニ因リ何時ニテモ其刑ノ執行ヲ免除スルコトヲ得ルト規定セリ故ニ假出獄ト異ナリ本條刑ノ執行免除ヲ得タル者ハ如何ナル犯罪アルモ其免除ヲ取消サル、モノナキモノトス

第六章 時 效

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

本條ハ時効ニ因リ刑ノ執行免除ヲ得ルコトヲ規定ス而シテ其刑ノ主刑タルト附加刑タルトヲ問ハズ

第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサル

ニ因リ完成ス

一 死刑ハ三十年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三

年未滿ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

本條ハ各刑罰ニ對スル時効期間ヲ規定ス而シテ各刑罰ノ輕重ニ因リ其時効期間ヲ異ニセ

第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内

ハ進行セス

本條ハ時効期間進行停止ノ場合ヲ規定ス

元來時効ナルモノハ不法ニ刑ノ執行ヲ免カレタル者ニ對シテ設ケル制度ナレバ法令ニ依リ正當ニ其執行ヲ免カレタル日數ハ之ヲ時効期間ニ計算スルヲ得ザルハ當然ナリ是レ本條ヲ設ケシ所以ナリ

第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

本條ハ時効期間中斷ノ原因ヲ規定ス

第一項ハ自由刑ニ處セラレタル者ニ對スル時効中斷ノ方法トシテ犯人ヲ逮捕シタルコトヲ必要トセリ舊刑法ハ刑ノ執行ニ付キ令狀ヲ發シタルトキハ是ノミニテ時効期間中斷スルモノトセルモ其理由ニ乏シク且ツ令狀ヲ發シタル者ト發セザル者トアルニ至リ不公平ノ結果ヲ生ズルコトアリテ時効ヲ設ケタル本旨ニ反スル虞レアリ故ニ新刑法ハ之ヲ改正シテ犯人ヲ逮捕シ

タルトキヨリ時効ヲ中斷スルコトハセリ
舊刑法ハ罰金科料及ビ沒收ニ付テハ時効中斷ノ規定ナカリシモ本條ハ之等ノ刑ニ對シテモ執行行為ヲ爲シタルニ因リ時効中斷スルモノトナシ其欠缺ヲ補ヒタリ

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

舊刑法ハ不論罪及ビ宥恕減輕ノ語ヲ用ヒ事實罪トナラザル場合及ビ罪トナルモ其刑ヲ減輕スル場合ヲ包含セシメタリト雖モ聊カ意義明瞭ヲ缺キ疑義ナキニ非ザルヲ以テ新刑法ハ之ヲ改メ罪トナラザル場合ハ犯罪ノ不成立ト爲シ刑ヲ免ジ若シクハ減ズル場合ヲ刑ノ減免ト爲シ其意義ヲ明瞭ニセリ

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ之ヲ罰セス

本條ハ法令又ハ正當ナル業務ニ因リ爲シタル行為ノ犯罪トナラザルコトヲ規定ス
法令ニ因リ爲シタル行為トハ(一)官吏ノ職務ノ執行(二)懲戒行為(三)監督行為(四)逮捕權ノ行使ノ如キ是レナリ

一ノ例ハ官吏公吏ガ其職務ノ範圍ニ於テ人ヲ逮捕スルガ如キ又タ司獄官吏ガ死刑ヲ執行

スルガ如キハ其通例ナリ

二ノ例ハ民法其他ノ法令ニ依リ懲戒權ヲ有スル者ガ其權利ヲ行使スル行為例ヘバ親ガ其子ヲ懲戒ノ爲ニ毆打シ又ハ其子ノ身體ニ灸點ヲ施スガ如キヲ云フ

三ノ例ハ學校教師ガ監督權ノ範圍ニ於テ一定ノ時間生徒ノ自由ヲ拘束スルガ如キヲ指ス
四ノ例ハ吾人ガ刑事訴訟法ニ因リ現行犯人ヲ逮捕スルガ如キヲ云フ

正當ナル業務ノ執行トハ醫師ガ患者ノ承諾ヲ得ズシテ其手足ヲ切斷シ又ハ其腹部ヲ切開スルガ如キ其通例ナリ

以上ノ場合ハ犯罪ノ外形ヲ具備スト雖モ一定ノ前提ヲ具備スル者ガ之等ノ行為ヲ爲シタル場合ハ罪トナラズ

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ

已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ所謂正當防衛權ヲ規定ス

舊刑法ハ正當防衛權ハ殺傷ニ關スル特別ノ不_フ論罪トシテ第三百十四條ニ其規定ヲ設ケタリト雖モ正當ナル防衛行爲ノ權利タリ無罪タルハ獨リ殺傷ノミニ限ラズ防衛ノ爲メ必要ナル以上ハ侵害者ヲ逮捕スルモ或ハ脅迫スルモ凡テ無罪トナルナリ故ニ宜シク總則中ニ規定スベシトノ理由ヲ以テ新刑法ハ之ヲ總則中ニ規定セリ

正當防衛權ノ發生ニハ左ノ條件ヲ具備セザル可カラズ

一 侵害行爲ハ自己又ハ他人ノ權利ニ對スルコト

茲ニ所謂權利トハ身體生命ニ對スル侵害ハ勿論財產名譽モ包含ス

二 急迫不正ノ侵害タルコト

故ニ未來ニ起ルベキ侵害ニ對シテハ防衛權ヲ行フコトヲ得ズ何トナレバ斯ル侵害ハ急迫ニ非ザルヲ以テ公力ニ訴ヘテ之ヲ防衛スルコトヲ得レバナリ又既往ノ侵害ニ對シテモ公力ヲ藉リテ救済ヲ求ムルノ外ナク之ニ對シテ自カラ救済ヲ與フルハ不法ナリ
侵害ハ不正ナルコトヲ要スルガ故ニ不正ニアラサル侵害例ヘバ死刑ノ執行ヲ受クル者ガ執行者ニ對シテ防衛權ヲ行使シ得ザルヤ明カナリ

三 防衛行爲ハ已ムヲ得ザルニ出ヅルコト

防衛行爲ハ已ムヲ得ズ侵害者ニ對スル反擊又ハ第三者ノ法益ノ侵害ニシテ此目的ハ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スルニアルヲ以テ法律ヲ以テ防衛行爲ヲ適法ト爲スハ此目的ノ爲ニ必要ナル範圍内ニ於テ存ス從テ其範圍ヲ超ユル行爲ハ不法ナリ

第二項ハ防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ一般ノ規定ニ從テ處斷スルコトヲ規定ス然レドモ急迫不正ニ侵害ヲ蒙ルニ當リ勢ヒニ乘ジ侵害者ニ防衛ノ程度ヲ超エタル反擊ヲ加ヘ又ハ第三者ノ法益ヲ害スルハ往々免カ_ル可カラザル實例ニシテ事態大ニ宥恕ス可キ餘地ヲ存ス故ニ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコト、セリ

第二十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在

ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

本條ハ現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得ザルニ出デタル行爲ヲ規定ス

本條ハ舊刑法ノ第七十五條ト同一趣旨ニシテ只其不備缺點ヲ修正シタルナリ今其修正ノ要點ヲ擧グレバ第一舊刑法第七十五條第一項ハ有形的自由ヲ喪失シタル場合ヲ規定シ抗拒ス可カラザル強制ニ遇ヒ其意ニ非ザル行爲ハ其罪ヲ論ゼズトアルモ若シ自己ノ身體外力ノ爲メ全ク強制セラレテ自由ヲ失ヒ爲シタルトキハ是レ外力作用ノ結果ニシテ自己ノ行爲ニ非ズ從テ罪トナラザルハ當然明文ヲ要セザルヲ以テ本條ハ斯ル規定ヲ掲ゲズ唯心意上ニ受ケタル外力強制ノ結果已ムコトヲ得ザルニ出デタル行爲ノミヲ規定ス第二ニ舊刑法第七十五條第二項ハ危難ノ原因ヲ天災又ハ意外ノ事變ニ限り防衛權ヲ自己若クハ親屬ノ身體ニ制限シタルモ斯ク制限ス可キ理由ナキヲ以テ本條ハ此制限ヲ改メ自己又ハ他人ノ生命身體自由及ビ財産ト爲シ是等貴重ノ權利ヲ保護シ危難ノ原因モ亦天爲ト人爲トヲ問ハズ其範圍ヲ汎クセリ

急迫危難ニ基ク防衛行爲ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 急迫危難ノ原因ハ人爲若クハ人爲以外ノ勢力タルコトヲ要ス
人爲ノ勢力ニ不正ノ侵害ナルモノト正當ナル行爲トアリ而シテ不正ノ侵害ニ對シテ爲ス

反撃若クハ之ヲ避クル爲ニ第三者ニ對シテ爲ス加害行爲ハ正當防衛行爲ニシテ本條ノ危難防衛行爲ニ非ズ故ニ本條ノ防衛行爲ハ必ズ天災又ハ他人ノ正當ナル勢力ニ對セザル可カラズ

二 危難ハ現在ナルコトヲ要ス

危難ガ現在ナラザル可カラザルハ正當防衛ニ付テ述ベタルト同ジ故ニ再說セズ

三 已ムコトヲ得ザルニ出ヅルコトヲ要ス

換言スレバ他ニ危難ヲ避クルノ途ナカリシコト、之ヲ避クル爲ニ必要ノ程度ヲ超越セザリシコトヲ必要トス

四 已ムコトヲ得ザルニ出デタル行爲ハ其行爲ヨリ生ズル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ越ヘザルコトヲ要ス

故ニ危難ノ程度ト危難ニ因テ生ズベキ害ノ程度トノ輕重ハ危難防衛行爲ガ必要ナリシヤ否ヤヲ定ムルノ標準トナル例ヘバ急迫危難ニ因リテ自己ノ時計ヲ失ハントスル者ガ如何ニ之ヲ保護スルノ必要アリトスルモノノ生命ヲ失ハシメテマデモ之ヲ保護スル必要ナシ

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル

場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

註釋

本條ハ罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ罪トナラザルコトヲ規定ス

犯意トハ何ゾヤ罪トナルベキ事實ヲ知リ且ツ其事實ヲ行ントスル決意ニ外ナラズ犯罪ノ成立ニハ犯意ナカル可カナズ凡ソ人ノ働作ガ刑法ニ掲グル所ノ犯罪事實ヲ形成スルモ其働作ヲ採リタル人ニシテ全然事實ヲ認識セズ又之ヲ認識スルモ決行セントスルノ意思ナクシテ現ハレタル働作ハ之ヲ目シテ犯罪行爲トス可カラザルヤ明カナリ例ヘバ獵夫ガ人ヲ獵ト信ジテ銃殺セルガ如ク又其人タルヲ知ルモ之ヲ銃殺セントスル決意アルニ非ズ過失ニ因リ偶然裝彈ノ銃ガ發シテ之ヲ殺スガ如キ是レ皆犯意ナキ働作ニシテ特別ノ場合ヲ除クノ外罪トナラズ而シテ但書ハ其特別ノ場合ナルコトヲ示ス特別ノ場合トハ犯意ナクトモ犯罪ノ成立ス可キ場合ニシ

テ即チ過失ヲ理由トシテ之ヲ罰スルニアリ例ヘバ前例ニ於テ猿ト信ジテ人ヲ銃殺セル場合ハ固ヨリ殺人ノ意思ナキガ故ニ故殺謀殺ト云フガ如キ犯罪ハ成立セザルモノヲ猿ト誤信スルガ如キハ其者ニ過失ノ責アリトシ過失殺ヲ以テ之ヲ罰スルガ如シ

第二項ハ第一項ノ主旨ヲ擴張セシニ外ナラズ罪本重カルベクシテ犯ストキ知ラザル者ハ其重キ部分ニ付テハ固ヨリ犯意ナケレバナリ例ヘバ犯人ガ他人ヲ殺サント欲シ誤テ自己ノ親ヲ殺シタル場合ハ殺親罪トシ重ク罰スルヲ得ズ

第三項ハ法律ヲ知ラザルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ザルヲ規定ス元來法律ハ立法者ガ一定ノ手續ヲ經テ制定スレバ廢止セザル以上ハ常ニ効力アルモノニシテ犯人ニ於テ之ヲ知ラザルヲ理由トシテ其効力ヲ殺グヲ得ズ

終ニ一言スベキハ法律ヲ知ラザルコト、罪トナル事實ヲ知ラザルコトノ區別是レナリ例ヘバ人ノ財物タルヲ知ラズシテ自己ノ所持ニ歸セシムルハ是レ刑法所謂罪トナル事實ヲ知ラザルモノニシテ其ノ財物ノ明カニ他人ノ所持ス可キ物タルヲ知ルモ之ヲ竊取スレバ法律ガ罰スルヤ否ヤヲ知ラザルハ法律ヲ知ラザルモノ、好適例ナリ

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

釋義 本條ハ心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セザルコトヲ規定ス犯罪ノ成立ニハ犯意ヲ必要トスルハ前ニ述ブル如シ故ニ精神喪失者ノ行爲ハ此要素ヲ缺クヲ以テ無罪トセザル可カラザルヤ明カナリ而シテ其喪失ノ原因ハ生レナガラニシテ有スルト中年ニ至リテ之ヲ有スルト又疾病ニ基クト疾病以外ノ原因ニ基クトヲ問ハズ例ヘバ生レナガラノ白痴者ノ行爲タルト中年ニ至リ疾病ノ爲メ精神ヲ喪失スルト又夕醉狂ノ爲メ之ヲ喪失スルトヲ區別セズ凡テ罰セザルナリ

第二項ハ心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ規定ス心神耗弱者ハ心神喪失者ニ比シテ精神狀態ハ稍ヤ健全ナリト雖モ常人ノ如ク完全ナル能ハズ故ニ是等ノ者ノ行爲ハ罰スルト同時ニ其刑ヲ減輕ス

第四十條 瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

釋義 本條ハ瘖啞者ノ行爲ニ付テ規定ス

瘖啞者ニ二種アリ生來ノ瘖啞者成長後ノ瘖啞者是レナリ而シテ生來ノ瘖啞者ハ知識ヲ養成ス可キ聽官語言ノ機關ヲ缺クヲ以テ精神機能ノ發育ヲ施ス能ハザルモノニシテ心神喪失者ト相

擇ブナシ故ニ之等ノ行爲ハ罰セズトシ之ニ反シテ成長後ノ瘖啞者ハ知識ノ發育ヲ遂ゲタル後疾病其他ノ原因ニ因リ瘖啞ト爲ルモノナレバ一旦發達シタル知識ハ爲ニ失フモノニ非ズ唯常人ニ比シテ多少知能ニ缺損ヲ來スヤ論ナシ故ニ是等ノ者ノ行爲ハ犯罪トシテ唯減輕スルニ過ギズ

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

釋義 本條ハ幼年者ノ行爲ニ付テ規定ス

人ノ知能ハ年ト共ニ發達ス故ニ精神ノ發育ヲ遂グルニ十分ナル年月ヲ經ザル者ノ行爲ハ犯罪トシテ罰スル能ハズ是レ各國一般ニ認ムル所ナリ只年齢ニ付テ多少相違スル所アルノミ我が舊刑法ハ其年齢ヲ十二歳未滿トセルモ近時生理學ノ發達ニ伴ヒ幼年ノ知能ハ此ノ如ク速ニ發育スベキモノニアラザルヲ知ルニ至レルト同時ニ幼年犯罪者ニ對スル懲治ノ方法完備セルトニ因リ責任年齢ヲ十四歳ニ高メタリ

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

本條ハ自首減輕ヲ規定ス

自首減輕ヲ設ケ自首者ノ刑ヲ減輕スルハ國家ノ恩典ナリ國家ガ此恩典ヲ與フルハ蓋シ犯人自首スレバ犯罪捜査ノ手續減少シ有罪者法網ヲ免カレ無辜冤罪ニ泣クノ危險少ナシ故ニ國家ハ刑罰ヲ犧牲ニ供シ犯人發覺ノ早カラシムコトヲ希望シ社會ノ保護ニ努メタルナリ
自首減輕ノ條件ハ左ノ如シ

一 罪ヲ犯シ未ダ官ニ發覺セザル前ニ自首シタルコト

故ニ一旦罪ヲ犯シ未ダ犯人ノ誰タルコトノ官ニ發覺セザル以前相當管轄權ヲ有スル官署即チ司法警察官又ハ檢事ニ對シテ自首スルコトヲ要ス

二 自首ハ官ニ對シ又ハ告訴ヲ俟テ論ズ可キ罪ニ付テハ告訴權ヲ有スル者ニ首服スルコトヲ要ス

自首トハ犯罪ヲ官ニ申告スルコトヲ謂フモノニシテ其性質殆んど告發ニ似タリ唯彼ハ他人ヨリ申告シ是ハ本人ヨリ申告スル差異アルニ過ギズ

自首減輕ノ説明ヲ終ルニ臨ミ一言注意ス可キハ舊刑法ハ自首アラバ必ず減輕ス可キコトトセリ故ニ犯人ハ減輕ヲ豫期シテ犯罪ヲ執行スルノ弊害アリタリ新刑法ハ之ヲ改メテ減輕スルトセザルトハ一ニ裁判官ノ裁量ニ任ジタリ

第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

本條ハ未遂罪ニ關スル規定ナリ

舊刑法ハ未遂罪ヲ規定シテ罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未ダ遂ゲザルトキハ既ニ遂ゲタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ズト規定シ其着手シテ遂ゲザル原因ヲ明示セリ然レドモ新刑法ハ其原因ヲ删除シ假令犯人意外ノ障礙ニ基キ犯罪ヲ遂ゲザルト將タ又犯人自己ノ意思ニ因リ之ヲ遂行セザルトヲ問ハズ凡テ未遂罪トセリ只自己ノ意思ニ因リ止メタルトキハ必ず減輕又ハ免除セラル、モノトセリ（舊刑法ハ未遂罪ハ必ず減輕ス可キモノト規定セルモ新刑法ハ之ヲ改正シテ減輕スルト否トハ裁判官ノ裁量ニ一任せリ）

未遂罪ノ成立スルニハ左ノ條件ヲ要ス

一 犯罪ノ實行ニ着手シタルコト

着手トハ犯罪ノ實行ヲ組成スル各舉動及ビ實行ニ近接シタル各舉動ヲ云フ

犯罪ノ實行ニ着手セザル以上ハ犯人ハ如何ニ危險ナル犯意ヲ抱擁スルモ亦タ犯意ヲ心外

ニ表ハスモ着手ノ程度ニ達セザル豫備ノ行爲タルニ在テハ未遂罪成立セズ

二 遂ゲザルコトヲ要ス

遂ゲザル原因ハ犯人意外ノ障礙ニ基クト或ハ自己ノ意思ニ因リ中止シタルトヲ論ゼズ只

茲ニ注意スベキハ犯罪ヲ遂ゲズトハ犯人ノ希望ノ遂ゲザルヲ云フニアラズ例ヘバ強盜財

物ヲ強取シタルモ後ニ財物ヲ取戻サレタル場合ハ其財物ヲ自己ノ所持ニ移ス希望ハ遂ゲ

ザルモ強盜犯罪ハ既遂ニシテ未遂ニアラザルガ如シ

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

本條ハ未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ定ムルコト、セリ其結果各本條ニ規定ナキ未遂罪

ハ如何ナルモノト雖モ罰スル能ハズ

第九章 併合罪

本章ハ舊刑法ノ數罪俱發ノ名稱ヲ改メタルモノナリ而シテ之ヲ改メタル理由ハ確定裁判

ヲ經ザル數罪ハ必ズシモ俱ニ發覺スルコトナク一罪既ニ確定裁判ニ經タル後他ノ犯罪發覺ス

ルコトナキニ非ズ此等ノ場合ニ於テハ數罪俱發ノ名稱ハ稍ヤ穩當ヲ缺クノ嫌ヒアリ故ニ之ヲ

併合罪トセリ

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁

判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪ト

ス

本條ハ併合罪トシテ處斷スベキ場合ヲ規定ス

併合罪トハ同一犯人未ダ確定裁判ヲ經ザル獨立シタル數個ノ犯罪發覺シタル場合ヲ云フ故ニ

數罪中一罪既ニ確定判決ヲ經タルモノアルトキハ只其罪ト確定判決前ニ犯シタル罪トヲ併合

罪トス

併合罪ニハ左ノ二條件アルコトヲ要ス

一 二個以上ノ獨立シタル犯罪アルコト

併合罪タルニハ各個獨立シタル犯罪アルコトヲ要スルガ故ニ彼ノ繼續犯ノ如キ連續犯ノ如キハ數罪ニアラズ從テ併合罪ニアラズ家屋內ノ竊盜罪ノ如キモ侵入罪ト竊盜罪トノ二罪ニアラズシテ法律上一罪ト看做スヲ以テ是レ亦タ併合罪ニアラズ

二 二個以上ノ犯罪ハ確定判決ヲ經ザルコト

一 罪既ニ確定判決ヲ經タル後更ニ他ノ罪ヲ犯シタルトキハ是レ再犯ニシテ併合罪ニアラズ

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セ

ス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

本條ハ新刑法ハ併合罪ニ付キ併科主義ヲ採用シタルヲ以テ併合罪中死刑又ハ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スベキ犯罪アリタル場合ニハ如何ニ處分ス可キヤヲ規定ス

本條第一項ハ若シ併合罪中死刑ニ該當ス可キ犯罪アリタルトキハ他ノ餘罪ハ之ヲ併科スルコト能ハザルヲ以テ吸收主義ニ依リ他ノ刑ヲ科セザルコトヲ規定ス但シ沒收ハ犯人ノ身體ニ關係ナキガ故ニ併科スルコト、セリ

第二項ハ併合罪中無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スベキ犯罪アリタルトキハ是レ亦タ他ノ刑ヲ併科セザルコト、セリ但罰金科料及ヒ沒收ハ犯人ノ身體ニ關係ナク其財産ヨリ徵收シ得ベキモノナレバ之ヲ併科ス

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アル

トキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

本條ハ併合罪ヲ制限併科スベキ場合ヲ規定ス

併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮アルトキハ其最モ重キ犯罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス例ハ刑法第二百三十六條ノ竊盜罪ト第二百三十七

條ノ強盜罪ト犯シタル者アリトセバ強盜罪ノ有期懲役十五年ニ其半數七年六ヶ月ヲ加ヘ二十年六ヶ月ノ範圍ニ於テ處分スベキモノトス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ズ

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

本條ハ罰金ト他ノ刑トハ原則上併科ス可キコトヲ規定ス

自由刑ト罰金刑トハ性質上併科シ得ベキヲ以テ之ヲ併合スルモノトナシタリ然レドモ死刑ニ處セラルベキ者ニ對シテハ罰金モ併科セザルコト、セリ若シ之ヲ併合ス可キモノトセバ苛酷ニ失スルヲ以テナリ

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

本條ハ併合罪ニ關スル沒收刑ノ處分ヲ規定ス

附加刑タル沒收ハ各犯罪ニ付テ當然附隨スルモノニアラズ若シ併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得ルモノトセリ

沒收ハ各性質ヲ異ニスルヲ以テ第二項ハ之ヲ併科スルコトヲ規定ス

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

本條ハ併合罪中既ニ判決ヲ經タルモノト經ザルモノトアル場合ノ處分ヲ規定ス

右ノ如キ場合ニ於テハ其裁判ヲ經ザル犯罪ニ對シテハ更ニ裁判ヲ爲ス可キモノトセリ是レ新刑法ハ併科主義ヲ採用シタル結果各個ノ犯罪ニ付テ一々裁判ヲ爲スノ必要アルヲ以テナリ

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定

メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

本條ハ併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタル場合ニ於ケル執行方法ヲ規定ス

已ニ屢々述べタル如ク新刑法ハ數罪併科主義ヲ原則ト爲スガ故ニ併合罪ニ付キ二個以上ノ判決アリタルモハ其各刑罰ヲ併セテ執行スベキモノトス

性質上併科シ能ハザル刑罰ハ又之ヲ併科執行シ能ハザルハ當然ナリ是レ但書ヲ以テ死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セズ有期自由刑ニ付テモ同ジク其刑期ノ合算ガ最モ重キ犯罪ノ刑期ニ半數ヲ加ヘタルモノニ超過ス可カラザルコトヲ規定シ孰レモ執行官ノ遵據ス可キ標準ヲ示セリ

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル

場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

本條ハ併合罪中大赦ヲ得タル犯罪アリタル場合ヲ規定ス

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者ノ中政治的内亂罪ノ如キモノアリテ大赦ノ恩典ニ由リ其犯罪事實ヲ免ゼラレタルトキハ更ニ他ノ罪ニ付キ刑期ヲ定ムベキモノトス蓋シ大赦ハ犯罪事實ヲ

消滅セシムルモノナレバ從テ他ノ犯罪ノ刑期ニ影響ヲ及ボスヲ以テナリ

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合

ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

本條ハ拘留又ハ科料ノ併科ニ付テ規定ス

拘留又ハ科料ハ其刑期又ハ金額ハ極メテ短期若クハ少額ナレバ全部併科ス可キモノトセリ
第一項ハ拘留又ハ科料ト他ノ刑トノ併科スベキヲ定ム但死刑又ハ無期ノ懲役禁錮ト併發シタル場合ハ併科セザルモノトス

第二項ハ二個以上ノ拘留又ハ科料ヲ併科ス可キモノトセリ

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

本條ハ想像上ノ併合罪ニ關シ規定ス

想像上ノ數罪トハ一所爲ニシテ數個ノ法律ニ抵觸シタル場合ヲ云フ例ヘバ他人ノ財産ヲ騙取スル目的ヲ以テ私書私印ヲ偽造シ貸金請求ヲ爲シタルトキノ如キハ私書私印偽造及ビ財物騙取ノ三個ノ法禁ニ觸ル、モ其私書私印偽造ハ財物騙取ノ手段ニ外ナラザレバ單ニ私書私印偽造行使詐欺取財犯ノ一罪成立スルニ過ギズ又例ヘバ懷胎ノ婦女ヲ毆打シタル爲メ胎兒ヲ墮胎セシメタルトキノ如キモ毆打罪ト墮胎罪ノ二罪成立スルニアラズ其墮胎ハ毆打ノ結果タルニ過ギザレバ是等ノ各場合ニ於テハ本條ノ規定ニ依リ其中最モ私書私印偽造罪又ハ墮胎罪ヲ以テ處斷ス可キモノナリ

舊刑法ハ此規定ナキガ爲メ解釋上頗ル疑義ヲ生ジタルヲ以テ新刑法ハ新ニ本條ヲ設ケタリ

第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

本條ハ連續犯ニ關スル處分ヲ規定ス

連續犯トハ數個ノ行爲ニシテ一個ノ罪名ニ觸ル、場合ヲ謂フ例ヘバ倉庫内ノ米十俵ヲ悉ク竊取スルノ目的ヲ以テ昨夜五俵今夜五俵宛竊取シタル場合ノ如キハ竊取ノ所爲ハ昨夜ト今夜ト斷絶スルモ犯意繼續スルヲ以テ之ヲ連續シタル一竊盜ナリトス
本條モ亦タ舊刑法ニ規定ナカリシヲ以テ大ニ疑ヲ生ジタリ故ニ新刑法ハ本條ヲ設ケテ疑ヲ杜絶セリ

第十章 累 犯

本章ハ舊刑法第一編第五章ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ其修正ノ要點ヲ掲グレバ

- 第一 舊刑法ハ犯罪ノ性質ヲ問ハズ再犯ノ規定ヲ設ケ先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪輕罪ニ該ルトキ又ハ先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレシ者再犯輕罪ニ該ルトキ先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル并ハ常ニ再犯例ヲ適用セシモ新刑法ハ犯罪ノ性質ニ因リ之ヲ區別シ主トシテ累犯ノ虞レアル者ニノミ再犯例ヲ適用スルコトニセリ**
- 第二 舊刑法ハ初犯ト再犯トノ間ニ於ケル日數ニ付制限ナカリシモ新刑法ハ之ニ改メテ初犯ト再犯トノ間ニ於ケル日數ニ制限ヲ置ケリ**
- 第三 舊刑法ハ再犯加重ノ刑ハ僅ニ一等ヲ加フルニ過ギザリシヲ以テ其刑甚ダ輕キニ失ス**

新刑法ハ之ヲ改メテ再犯以上ノ者ニ對シテハ最長期ニ倍ノ刑ヲ科スルコトニセリ

第五十六條

懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

註釋 本條ハ再犯例ヲ適用スベキ期間及ビ罪質ヲ規定ス

第一項ハ再犯例ヲ適用ス可キ犯罪ノ性質ヲ制限シ懲役ニ處セラレタル者ニアラザレバ再犯例ヲ以テ論ゼズ故ニ禁錮ニ處セラレタル者ハ再ビ罪ヲ犯スモ再犯例ヲ以テ處斷スベキモノニ非ズ
第二項ハ懲役ニ該ルベキ犯罪ト同性質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者ニ再犯例ヲ適用ス可キ場合ヲ定ム即チ第一項ハ再犯例ヲ以テ論ズルニハ其初犯ハ懲役ニ限ルモ其懲役ニ該ルベキ犯罪ト同性質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ執行ノ免除ヲ得タル者若クハ死刑ヨリ懲役ニ減輕セラレタル者ニ對シテハ尙ホ一層之ヲ再犯加重スベキ必要アルヲ以テ此等ノ者カ本條第一項ノ期間内更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ再犯例ヲ適用ス可キモノトセリ
第三項ハ數罪併發シタル場合ニ於テ其中懲役ニ該當ス可キ犯罪アリタルトキハ本刑ト定メラレタルモノハ勿論否ラザルモ本法ハ併科主義ヲ採用シタル結果各犯罪獨立スルモノト爲シ假令其罪重カラザルモ仍ホ再犯トシテ存在セシメテ加重ス可キモノト爲シタリ
本條ニ依レバ再犯加重ニハ左ノ條件アルコトヲ要ス

第一 初犯ノ犯罪確定シ且十年以内ナルコト

第二 日本裁判所ノ判決ナルコト

第三 前罪ト同一刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタルコト

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

本條ハ再犯ニ對スル科刑ノ標準ヲ定ム

再犯以上數罪ヲ犯ス者ハ刑罰懲戒ノ效ナキモノナレバ之ヲ嚴罰シ犯人ノ改悛ヲ圖ラザル可カラズ然ルニ舊刑法ハ再犯加重トシテ僅ニ初犯ニ一等ヲ加フルニ過ギズ是レ加重ノ分量輕キニ失スルモノナリ故ニ新刑罪ハ之ヲ改メテ再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍トセリ

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

本條ハ裁判確定後再犯ヲ發見シタル場合ヲ規定ス

犯人ハ再犯加重ヲ免ガレン爲ニ初犯ヲ隱蔽センコトニ努ム故ニ裁判確定後ニ至リ再犯タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ムルコト、セリ舊刑罪ハ裁判ノ當時

再犯者タルコトヲ發見セザルトキハ其後ニ至リ發覺スルモ最早ヤ刑罰ヲ變更スルヲ得ザルモノトセルヲ犯人ハ裁判當時極力再犯ニアラザルコトヲ爭ヒ隱蔽ニ努ム本法ハ之ヲ改メ何時ニテモ再犯タルコトヲ發見セバ刑ヲ加重スルコトヲ規定シ其弊ヲ矯正セリ、

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

本條ハ三犯以上ノ者ニ對スル再犯例ヲ規定ス

第十一章 共犯

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

本條ハ正犯ニ關シ規定ス

本條ハ舊刑法第四百條ヲ修正シタルモノナリ即チ舊刑法ハ現ニナル文字ヲ以テ實行正犯ノ意義ヲ示シタルモ其意義狹キニ失スル嫌アレバ新刑法ハ之ヲ共同シテト改メ各自ニ其刑ヲ科ストアルモ是レ當然ノコトナルヲ以テ之ヲ削除シ皆正犯トスト改メタリ
共犯ニ付テハ理論上及ビ實際上頗ブル重要ナル問題ナルヲ以テ左ニ少シク詳論ヲ試ミン
一 二人以上ノ意義

共犯ニハ數人共同シテ自己ノ犯意ヲ實行スルコトヲ要スルヲ以テ二人以上ノ者凡テ犯罪ノ責任能力並ニ責任條件ヲ有スル者ナラザルベカラズ故ニ犯罪無能力者タル幼者ト共ニ犯罪ヲ行フモ共犯ニ非ズ

二 共同ノ意義

共同トハ二人以上ノ者同一犯罪ヲ共ニ行フノ意思ヲ以テ實行スルヲ云フ敢テ意思ノ通謀アルヲ要セス例ヘバ暗夜人ヲ毆打スル者アリ余之ヲ見テ共ニ毆打セバ其間ニ通謀ナキモ余ハ共犯トシテ罰セラルベシ

三 犯罪實行ノ意義

數人共同シテ犯罪行爲ノ全部若シハ一部ヲ行フヲ云フ數人共同シテ犯罪ノ全部ヲ行ヘバ共犯ノ既遂罪ニシテ其一部ヲ行フヲ遂ゲザルトキハ共犯ノ未遂罪ナリ共ニ犯罪ノ實行ナリ必スシモ目的ノ既遂未遂ニ因リテ實行ナルト否トヲ區別ス可ベカラズ

四 正犯ノ意義

正犯ハ從犯ニ對スル語ニシテ犯罪ノ主タル責任ヲ負擔スル者ヲ云フ例ヘバ殺人罪ニ於テ直接人ヲ殺シタル者ハ正犯トシテ主タル責任ヲ負擔スルモ只之ニ刀劍ヲ貸與シタリ或ハ

正犯ヲ犯所ニ誘導シタル者ノ如キハ正犯ニ非ズ

第六十一條

人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

本條ハ教唆犯ヲ規定ス

本條ハ舊刑法第百五條ト其主旨ニ於テハ同一ナリ唯本條ハ重罪輕罪ノ文字ヲ削除シタルト亦正犯ト爲ストノ文字ヲ亦正犯ニ準スト改メ實行正犯ニアラザル者ニ實行正犯ト同一ノ刑ヲ科スルモノナリトノ意義ヲ明瞭ナラシメタリ

一 教唆ノ意義

自己ノ犯意ヲ他人ニ注入シ他人ヲシテ其ノ犯意ヲ實行セシムルヲ教唆ト云フ換言セバ犯行實行者ノ犯意ノ製造者ナリ例ヘバ甲ガ乙ヲ勸メテ丙ヲ殺サシメタル場合ニ甲ガ殺人罪ノ教唆者ニシテ乙ハ犯罪ノ實行者ナリ勿論教唆者ハ犯罪ノ造意ナリ故ニ此場合ニ於テ乙ニシテ已ニ殺人ノ犯意アリタリトセバ教唆ナルモノハ存在セズ

二 犯罪ヲ實行セシムルノ意義

犯罪ヲ實行セシムルトハ教唆者ノ注入シタル犯意ガ實行セラル、コトヲ云フ故ニ例ヘバ
甲ガ乙ヲ教唆スル單ニ丙ノ財物ヲ窃取スルコトヲ以テセシニ乙ハ丙ヲ殺セシ場合ノ如キ
ノ教唆ニ因リ犯罪ヲ實行セシメタルモノニアラズ

第二項ハ新刑法ノ創設ニ繋リ舊刑法ノ規定セザル所ニシテ從來蟠レル教唆者ノ教唆者ハ之
ヲ罰スルヤ否ヤニ付テノ疑問ヲ解釋シタリ

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

本條ハ從犯ヲ規定ス

本條ハ舊刑法第百九條ヲ修正シタルモノニシテ舊刑法ハ豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シタル
者ヲ從犯ト爲シタルノ嫌アルト幫助ノ方法ノ列擧シタルヲ以テ實際ニ於ケル適用上困難ヲ生
ジタレバ新刑法ハ之ヲ改メテ別段幫助ノ方法ヲ示サザルコト、セリ
從犯ノ成立ニハ二ノ條件ヲ要ス

一 正犯ヲ幫助シタルコトヲ要ス

イ 正犯アルコト

從犯ハ主タル正犯ナルモノアリテ初メテ存在スル從タル犯罪ナルヲ以テ正犯アルヲ要
スルヤ論ナシ故ニ原則上主タル正犯ト其運命ヲ俱ニスルモノニシテ正犯成立セザレバ
從犯ナリ正犯主遂犯ナレバ從犯亦タ未遂犯ナリ

ロ 幫助アルコト

幫助ノ方法如何ヲ問ハザルコトハ前ニ述べタル如シ

二 正犯ヲ幫助スル意思アルコトヲ要ス

例ヘバ人ヲ殺スコトヲ知ラズ刀劍ヲ貸與スルモ從犯ニ非ズ然レモ正犯從犯ノ間ニ通謀ア
ルコトヲ要セズ

第二項ハ從犯ヲ教唆シタル者ノハ從犯ニ準スルコトヲ規定ス是レ亦タ前條第二項ト同シク新
刑法ノ新ニ設クル所ニシテ從來ノ疑問ヲ明カニセリ

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

舊刑法ハ從犯ハ必ズ正犯ノ刑ヨリ一等ヲ減ズ可キコト、セシヲ新刑法ハ之ヲ改メテ正犯
ニ照シテ減輕スベキモノトシ其何等ヲ減輕スベキヤヲ示サズ其刑ノ減輕ノ程度ニ付テハ事實
承審官ノ認定ニ一任セリ

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

本條ハ拘留又ハ科料ニ處スベキ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ原則トシテ罰セザルコトヲ規定ス是レ等ノ罪ハ輕微ナルヲ以テ一般ニ處罰スルノ必要ナキモノト認メタルガ故ナリ然レモ若シ罰スル必要アル場合ニ於テハ各本條ヲ以テ特ニ明示スルコトトセリ

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

本條第一項ハ犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ罪ヲ共ニ犯ストキハ其身分ナキ者ト雖モ共犯ヲ以テ論ズ可キコトヲ規定ス

舊刑法ニハ此規定ヲ缺クヲ以テ學說ニ別レタリ無罪論者ハ曰ク犯人ノ身分ニ因リ構成スベキ犯罪ハ其特別ノ身分ナキ者ハ共ニ之ヲ犯スモ共犯ヲ以テ論ズルヲ得ズ例ヘバ官吏收賄罪ハ官吏タル特別ノ資格アリテ始メテ成立スル罪ナリ故ニ是等ノ身分ナキ者ガ身分アル者ト共ニ

犯スモ罰スルヲ得ズ有罪論者ハ曰ク官吏收賄罪ノ如キハ特別ノ身分ヲ要素トスル犯罪ト雖モ法律ノ禁令又ハ命令ニ違反スルハ他ノ犯罪ト異ナルナシ一般ノ共犯ノ原則ニ依リ之ヲ罰スルモ毫モ法理ニ反スルモノニアラズ

新刑法ハ以上二說中有罪論ヲ採用シ此疑義ヲ解決シタリ第二項ハ身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ハ通常ノ刑ヲ科スベキモノト規定ス例ヘバ子孫タル身分アル者ト之等ノ身分ナキ者ト共ニ刑法第二百一條ノ罪ヲ犯シタルトキハ子孫タル身分アル者ハ普通ノ殺人罪ニ比シテ重罰セラル、モ是等身分ナキ他ノ共犯者ハ通常殺人罪ノ刑ニ處セラル、ニ過ギザルナリ又身分ニ因リ刑ヲ減輕セラル、者例ヘバ十四歳以上二十歳未滿ノ者ト普通責任能力者ト共ニ罪ヲ犯シタルキハ其身分アル者ハ其刑ヲ減輕セラル、モ此等身分ナキ者ハ通常ノ刑ニ處セラル、ナリ

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

【註釋】 本條ハ酌量減輕ヲ規定ス

凡ソ犯罪ノ情狀タルヤ千差万別極マリナシ同ジク殺人罪ヲ犯ス者ニアリテモ其情狀ニ至リテハ種々アリ貧困ノ爲ニ犯ス者アリ或ハ嫉妬ノ爲ニ犯ス者アリ或ハ怨恨ノ爲メニ出ヅルアリテ之ヲ法文ニ列擧スルハ到底不能ノコトニ屬ス故ニ本條ヲ設ケ犯罪ノ情狀ニシテ憫諒ス可キモノアラバ其刑ヲ減輕シ罪刑權衡ヲ得セシメントセリ而シテ酌量減輕ノ最モ必要ナル場合ハ彼ノ死刑無期刑ニ處セラルベキ場合ニアリ元來死刑及ビ無期刑ハ分割ス可カラザル刑ナルヲ以テ犯罪ノ情狀ニシテ恕ス可キモノアレバ本條ノ規定ニ因リ死刑ヲ無期刑ニ無期刑ヲ有期刑ニ減輕スルコトヲ得ルナリ

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

【註釋】 本條ハ酌量減輕ヲ適用スベキ範圍ヲ定ム

法律ニ依リ刑ヲ加重スベキ場合例ヘバ再犯子孫其祖父母ヲ殺傷シタル如キ場合ハ法律上當然刑ヲ加重セラル、ナリ本條ハ斯ル場合ニ於テモ亦一方ニ酌量減輕ヘルコトヲ得ルトセリ又々法律ニ於テ特ニ減輕ス可キコトヲ規定セル場合例ヘハ二十歳未滿ノ者ノ行爲ハ法律ガ當然

減輕ス可キモノトセルガ故ニ別段酌量減輕ヲ與フル必要ナキガ如キモ尙ホ本條ニ依リ減輕セラル、コトヲ規定ス

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス
- 四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

註釋 本條ハ法律上減輕スベキ場合ノ標準ヲ規定ス

本條ヲ以テ法律ノ規定ニ基ク原因ノ一個又ハ數個アルトキハ第一號乃至第六號ノ順序竝ニ標準ニ依リ之ヲ減輕ス可キモノトス而シテ本條ニ於テ法律上減輕ス可キ場合ヲ規定シ法律上加重ス可キ場合ヲ規定セサルハ既ニ再犯及ビ併合罪ノ章ニ於テ其加重ス可キ場合ヲ規定シタルヲ以テ茲ニ掲ゲズ

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ

刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

註釋 本條ハ法律上減輕スベキ場合ニ先ツ本刑ヲ一定スベキコトヲ規定ス

本法ニ於テハ刑ノ種類ヲ減少シ且刑ノ範圍ヲ擴張シタルヲ以テ各本條ニ二個以上ノ刑名ヲ設ケタル場合ニ於テハ裁判所ヲシテ其一ヲ擇ハシムルナリ

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ

剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

註釋 本條ハ意義明瞭別ニ説明ヲ要セズ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

註釋 本條ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキノ順序標準方法ヲ規定ス

第六十八條及ビ前條ハ法律上刑ヲ減輕ス可キ場合ノ規定ナリ本條ハ之等ノ規定ヲ酌量減輕ノ場合ニモ適用スベキモノトセリ

七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一 再犯加重

二 法律上ノ減輕

三 併合罪ノ加重

四 酌量減輕

註釋 本條ハ加減ノ順序ヲ規定ス

第一號ニ再犯加重ヲ置キタルハ再犯ハ本刑ヲ倍加ス可キ規定ナルヲ以テ之ヲ第一ニ置カザレバ他ノ減輕ヲ施スモ其實益ナケレバナリ第二ノ法律上ノ減輕ハ必ズ法律ノ規定ニ依リ減輕ス可キモノナルヲ以テ第二ニ置キタリ第三ノ併合罪ノ加重ハ再犯加重ト法律上ノ減輕トニ依リ本刑ヲ一定シ後チ併合罪ノ規定ニ依リ併科ス可キヤ否ヤヲ定ムルヲ以テ之ヲ第三ニ置キタリ第四ノ酌量減輕ハ裁判所ノ認定ニ因リ自由ニ減輕ス可キモノナレバ罪刑公平ヲ得セシムル爲メ最後ニ置ケリ

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

單ニ皇室ニ對スルトハ意義汎博ナルモ要スルニ天皇陛下以下皇族ノ御身體ニ對スル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊法第二編第一章ノ規定ヲ少シク修正シタルニ止マリ其ノ趣旨ニ於テハ全ク同一ナリ

舊法ハ本章ノ罪ニ對シ附加ノ罰金ヲ科スルコトアルモ本法ハ罪ノ性質上單ニ懲役ノミヲ罪ス

ルヲ以テ足レリトシ罰金ヲ科スルコトヲ止メタリ

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ

危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

舊法第百拾六條ト同一ノ趣旨ニシテ唯、本法ハ皇室典範ノ規定ニ準據シ三后ヲ太皇太后

皇太后皇后ト改メ皇太孫ヲ加ヘタルナリ

危害ヲ加ヘタル者トハ御身體ニ害ヲ加フルノ意思ト害ヲ加ヘタルノ所爲アルコトニシテ又危害ヲ加ヘントシタルトハ危害ヲ加フルノ意思アルモ其ノ所爲ノ未ダ之ニ及バザルヲ意味スルモノデ則チ危害ヲ加ヘタル者ノ未遂罪ナリ而シテ其所爲ノ着手若クハ豫備及陰謀ヲモ含ムモノナリ此等ノ罪ヲ犯シタルモノハ死刑ニ處セラレ

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ

不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

舊法第百十七條ヲ少シク修正シタルモノニシテ第一項ハ前條ト同一ノ理由ニテ文字ヲ改

メ而シテ罰金ヲ附加スルコトヲ削除シタリ第二項ハ同條第二項ニ神宮ヲ加ヘタルノミナリ
 不敬ノ行爲トハ皇室ノ尊嚴ヲ汚瀆シ奉リ言語文章舉動罵詈訾譏毀侮辱等如何ナル方法ニ拘
 ラズ不敬ヲ加エント思フテ爲シタル不敬ナリト認メ得ル所爲ナリ
 神宮トハ伊勢大廟ニシテ皇陵トハ御歷代ノ天皇ノ墳墓ヲ云フナリ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘント
 シタル者ハ無期懲役ニ處ス

舊法第百十八條ト全ク同一趣旨ニシテ皇族トハ皇太子妃、皇太孫妃、親王、親王妃、内
 親王、王、王妃、女王ヲ云フ其他第七十三條ト同意義ナリ

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲
 役ニ處ス

第七十四條説明ト同意義ナリ

第二章 内亂ニ關スル罪

舊法第二編第二章第一節ヲ修正シタルモノニシテ舊法ニハ國事ニ關スル罪ヲ規定シテ内
 亂罪及外患罪ニ區別スト雖モ此二罪其性質同一ナラズ國事ニ關スルモノハ主トシテ内亂罪
 ノミナルヲ以テ本法ハ此二種ノ罪ヲ分ツテ全ク別章ト爲シ内亂罪ヲ以テ國事ニ關スルモノナ
 ルコトヲ明セリ

抑モ本章ニ規定スル罪ハ國家ノ生存ヲ危クスルモノニシテ危險極メテ重大ナリト雖モ其犯行
 タルヤ敢テ自己ノ私益ノ爲メニ之ヲ企ツルニ非ズシテ多クハ公衆ノ利益ヲ目的トシテ之ヲ行
 ハントスルモノナリ此故ニ此等ノ犯人ニ對シ通常ノ犯人ニ科スル可キ懲役ノ刑ヲ科スルハ罪
 ノ性質ト刑ノ種類ト相應ゼズシテ殆ンド科刑ノ趣旨ニ反スル嫌アルヲ以テ舊法ト同ク禁錮ヲ
 科スルコト、ナシタリ

舊法第百二十三條百二十四條百二十八條ハ不必要ニ付キ削除シタリ

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ
 目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シ其他軍ニ暴動ニ干與シタル者ハ二三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

舊法第二百一十一條ヲ修正シタルモノニシテ同條内亂ヲ起シ云々ヲ暴動ヲ爲シタル云々ト改メタルハ内亂ナル語ハ往々國內ノ現實ノ戰爭ヲ意味スルヤノ疑義アレバナリ而シテ之ヲ避テ暴動ト爲シタルハ未ダ戰爭ニ至ラザル狀況ニ在ルトキト雖モ已ニ暴動ヲ爲ストキハ本條ノ罪タルコトヲ規定シタルモノニシテ舊法第二百二十四條ノ如キ其結果無用ノ規定ト爲リタルモノナリ

第一號教唆者ノ規定ヲ除キタルハ總則ノ規定ニ依リ首魁ノ教唆者ヲ罰シ得ベキヲ以テ特ニ内亂自體ノ教唆者ヲ罰スル必要ナシト思料シタルニ因ル第二號前半ハ舊法ノ第二號ト同ジク只

樞要ノ職務トアルハ意義不明ナルヲ以テ謀議ニ參與シト改ム後半ハ舊法第三號ノ一部ト同一ニシテ第三號ハ舊法第四號ト同一ナリ本條第二項ハ本條第一項ノ第一號及第二號ニ掲グル罪ノ如キハ其未遂ヲ罰ス必要アルニ因ル

政府ヲ顛覆シ云々トハ現政府ヲ倒シ己之ニ代ラントカ日本帝國ノ或一部ヲ押領シテ陛下ノ統治セラル、大權ヲ奪フテ獨立スルトカ其他國家ノ秩序組織ヲ亂シ憲法ヲ蹂躪スルコトヲ目的トスルモノナリ

暴動ノ所爲自體ノ性質上多人數ノ結合シタル團體ナルヲ以テ之ヲ指揮統率スル首領ハ乃チ首魁ニシテ其部下ノ執ル所ノ職務ニ從ヒ數多ノ階級位置ノ上下如何ニ依リ無論犯罪行爲ノ程度差異アルハ明ナリ首領ヲ補佐シ幕僚トシテ謀議ニ參與シ又ハ一方ノ隊長トシテ群衆ヲ指揮シ其他諸般ノ職務ニ從事シ上長ノ指揮ヲ受クル下級ノ役員等皆職務上ノ位置ニ從ヒ處分セラル、ナリ特ニ何等ノ目的モナク暴動ト知リツ、他人ノ使喚ニ煽動セラレテ附隨スルモノ其他暴動ニ干與スル雜夫雇員ノ如キモノモ三年以下ノ禁錮ニ處セラルベシ

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

舊法第二百二十五條ト同一趣旨ニシテ前條ノ豫備陰謀ヲ罰スル規定ニシテ舊法ハ豫備ノ方
法ヲ例示スルモ本法ハ之ヲ削除シタリ

豫備トハ海陸送兵運輸通信其他軍備等ヲ調査シ又ハ兵隊ヲ招募シ兵器軍資ヲ準備スルガ如キ
コトニシテ内亂罪ノ如キ事態重大ノモノナルガ故之ヲ罰スルナリ豫謀ノ所爲ト同時ニ他罪ヲ
犯シタルモノハ無論併合罪ニ依リ罰スルモノナリ陰謀ハ二人以上通謀シテ犯罪行爲ヲ謀議
計畫スルコトヲ云フ

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫
助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

舊法第二百二十一條第三號ノ一部及第百二十七條ヲ合シ概括的ニ一般ノ内亂ノ幫助ノ場合
ヲ罰スル規定ヲ設ケタルモノニシテ舊法ハ幫助ヲ罰スル場合狹キニ失スルヲ以テ之ヲ補修シ
タルモノトス而テ本條ハ自ラ内亂軍ニ從事セズシテ唯軍費銃砲彈藥等ヲ寄贈シ又ハ其他ノ行
爲ニテ前二條ノ罪ヲ幫助スルモノヲ罰スルモノナリ

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者

ハ其刑ヲ免除ス

舊法第二百二十六條ト同一趣旨ニシテ内亂ノ如キハ一旦發生セバ幾多ノ人命ヲ喪失シ或ハ
巨萬ノ富ヲ害フモノナルガ故大事ニ至ラザル前官ニ自首スルトキハ其ノ罪ヲ免除シタルハ事
ノ未發ニ之ヲ防止センガ爲ナリ

第三章 外患ニ關スル罪

本章ハ政治犯罪ニシテ國家ノ外部ノ安寧ニ關スル罪ナリ舊法第二編第二章第二節ヲ修正
シタルモノニシテ主トシテ戰時ニ於ケル帝國ノ軍事上ノ利益ヲ保護スルコトヲ目的トス舊法
第百三十三條第百三十四條ハ之ヲ本法第四章國交ニ關スル罪ニ屬スベキモノトシテ之ヲ同章
ニ移シタリ

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シ
テ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

舊法第二百二十九條ヲ修正シ之ニ同第三百十條ノ前段ノ罪ノ一部ヲ加ヘタルモノニシテ同

盟國ニ關スル規定ヲ除キタルハ本章第八十九條ノ規定アルガ爲ナリ又舊法ニハ外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシムル場合ヲ缺クヲ以テ之ヲ補ヒタリ

日本臣民ハ忠君愛國ノ大義ヲ片時モ忘却スベカラザルハ云フ迄モナキナリ然ルニ外國乃チ日本國以外ノ或國ト竊ニ謀テ日本帝國ニ對シ戰爭ヲ開カシメ又ハ日本ト交戰中ノ敵國ノ爲メ利益ヲ計テ帝國ニ敵對スルモノ、如キハ大逆人ト云フベク死刑ニ處スベキナリ

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス
兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

註釋 第一項ハ軍用ニ供スル場所建物等ノ如キ交付ノ目的物ノ比較的重要ナル場合ヲ規定シ第二項ニ於テ軍用ニ供スル物ヲ交付シタル場合ヲ規定シタリ

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用ス

ルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

註釋 陸軍刑法第五十八條同第六十一條ノ規定ヲ基礎トシ本條ヲ設ケタルモノナリ本條ニ列舉シタル物ヲ毀壞シ又ハ之レヲ使用不能タラシムルガ如キハ實際上頻繁ニ生ズベキ罪ナルヲ以テ刑法ニ之ヲ規定スル必要ヲ感ジ刑ハ陸海軍刑法ヲ斟酌シテ之ヲ規定セリ

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬥ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

註釋 是亦舊法ノ缺如スル規定ニシテ帝國ノ軍用ニ供セズト雖モ直接ニ戰鬥ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル場合ニ關スルモノトス刑期ノ如キハ前條ニ參照シ情狀稍輕シト爲シ死刑ヲ科セザルコト、セリ

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

註釋 舊法第三百三十一條ヲ修正シタル規定ニシテ舊法ハ間諜ノ方法及敵國ノ間諜ノ幫助ノ方法

ヲ示スト雖モ本法ハ之ヲ删除シ概括的ノ規定ヲ設ケタリ又舊法ハ軍情機密云々トアレドモ意
義稍不明瞭ナルヲ以テ本條第二項ニ於テ明ニ軍事上ノ機密漏泄ノ場合ヲ規定シタリ
間諜トハ敵ノ軍情ヲ探知スルノ任ニ該ルモノニシテ敵國ノ間諜ヲ幫助スルトハ其服裝容貌ヲ
變ゼシメ又ハ自己ノ家屋若ハ他ノ場所ニ藏匿セシメテ發見ヲ妨グルノ行爲ナリ
軍事上ノ機密トハ則軍隊ノ上陸點戰艦ノ根據地等ノ如キ敵國ノ得テ知ルベカラザル軍機ノ秘
密ニシテ漏泄トハ之ヲ敵國ニ通知スルヲ云フ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益
ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ
處ス

註釋 總テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル場合ノ規定ニシテ假
ニ前數條ニ於テ種々ノ場合ヲ想像シタリトスルモ尙或ハ不備ノ點ナキヲ必ス可カラズ且又前
ニ擧ゲタル如ク本章ノ罪ハ事體容易ナラザルモノナルヲ以テ本條ニ於テ廣キ規定ヲ設ケ他ノ
條文ニ缺ケタル場合ヲ網羅シタルモノナリ從テ刑ニ至リテモ二年以上ノ範圍ヲ有スル有期懲
役トシ裁判所ヲシテ事情ニ應ジ適宜ノ刑ヲ科スルコトヲ得セシメントシタリ

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

註釋 各本條ニ總則ノ規定ヲ適用シタル結果ト同一ニ歸ス舊法ニ類似ノ規定ナシ

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀
ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

註釋 本章ノ罪ハ事態重大危險ノ大ナル前章ノ罪ト同ジクシテ其豫備、陰謀ヲ處罰スル必要ア
ルニ因ルナリ

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

註釋 戰時同盟國トハ外國ト交戰中攻守同盟ヲ締結シタル或國ニシテ本章ノ規定ハ其國ニ對シ
テ爲シタル行爲ニモ亦適用スルモノニシテ舊法ニテハ第二百二十九條第三百十條ニ於テ同盟國
ニ對スル行爲ニ關スル規定ヲ設ト雖モ本法ニハ一括シテ本法ニ規定シタリ

第四章 國交ニ關スル罪

舊法ニハ國交ニ關スル罪ヲ設ケザル爲メ往々不備ヲ感シタルコトアルヲ以テ本法ハ新ニ帝國ニ現在スル外國ノ君主、大統領又ハ使節ニ對スル暴行脅迫又ハ侮辱ノ罪及ビ外國ニ對スル非禮ノ罪ヲ規定シ之レニ舊法第百三十三條及第百三十四條ノ規定ヲ加ヘ以テ本章ヲ設ケタルモノナリ

國交ニ關スル罪ヲ設ケタルニ付立法例ニアリ一ハ相互主義ニシテ外國ノ刑法ニ於テ本章ノ罪ヲ設ケタル場合ヲ限リ内國ニ於テモ本章ノ規定ヲ適用スルモノ一ハ單獨主義ニシテ外國法ニ於テ本章ノ罪ヲ設ケルト否トヲ問ハズ之ヲ罪ト爲スモノニシテ本法ハ實ニ第二ノ主義ヲ採リタリ

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シテハ最モ敬意ヲ以テ禮遇シ些ノ尊嚴ヲ犯ス

ベキ行爲アルベカラズ故ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルモノハ之ヲ通常ノ暴行罪ニ間擬セズシテ特ニ本條ニ因テ處分シ以テ此等ノ貴賓ヲ敬遇スル趣旨ヲ明シタリ第二項ハ此等ノ貴賓ニ侮辱ヲ加ヘタル場合ノ規定ニシテ是亦本條ニ因テ特別ノ處分ヲ爲スモノナリ其外國政府ノ請求ヲ待テ罪ヲ論ズルハ通常ノ誹毀罪ト同ジク本罪ノ性質上親告罪ニ屬スベキモノニシテ特ニ其風俗習慣ノ異ナルヤ往々我國ニ在テ侮辱ニ相當スベキモノモ彼國ニ於テハ否ラザルモノアリテ起訴スベキヤ否ヤ當該檢事ニ一任ス可カラザルモノアレバナリ又之ヲ告訴トセズシテ請求トシタルハ告訴ニ一定ノ法式ヲ要スルヲ以テ之ヲ外國政府ニ命ズルトキハ同政府ヲシテ手續上ノ困難ヲ感ゼシムル煩累アレバナリ

暴行トハ人ニ對シテ不正ニ腕力ヲ用ユルノ義ニシテ脅迫トハ心裡上ニ急迫ナル危害ヲ受クルノ恐怖心ヲ懷カシムルノ行爲乃無形ノ暴行ヲ云フ侮辱トハ品格又ハ尊嚴ヲ毀損ス可キ不敬ノ所爲ヲ云フ而シテ暴行脅迫侮辱ノ如何ナル行爲タルヤハ法律之ヲ列舉セズ偏ニ裁判官ノ斷案ニ委スモノナリ

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以上ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

總テ前條ト同一理由ニ出デタルモノナリ

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以上ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

舊法第三百二十三條ヲ修正シタルモノニシテ舊法ニ戰端ヲ開クトアルヲ戰鬪ヲ爲スト改メ

タルハ戰端ハ即チ戰爭ヲ開始スルノ義ニシテ戰爭ナル用語ヲ實際ニ適用スルニ付テハ疑ナキ能ハズ寧ロ戰鬪ト爲シ對手ノ一人タル場合ニ廣ク適用スルコトヲ便宜トスレバナリ又舊法ハ豫備ノミヲ罪ト爲スト雖モ本法ハ陰謀ヲモ尙ホ罰スル必要ヲ認メタリ又本條ノ罪ハ之ヲ自首シタルトキハ免除スルコト、規定シタリ其自首ノ方法ハ總則ノ規定ニ準據スベキ事勿論ナリトス

第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ二年以上ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

外國互ニ干戈ヲ交ユルニ際リ自國ノ之ニ何等ノ干係ヲモ有セザルトキハ常ニ戰局ノ外ニ立チテ之ニ干與セザルヲ例トス之ヲ名ケテ局外中立ト云フ而シテ此中立ヲ全フセン爲メ政府ノミナラズ一般臣民ヲシテ之ヲ嚴守セシメ爲戰者ノ一方ヲシテ我ニ疑ヲ懷カシムルコトナキヲ要ス故ニ此等ノ所爲ニ對シ制裁ヲ規定スルナリ

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

註釋 本章ハ舊法第二編第三章第二節及第八節ノ規定ヲ合シ之ヲ修正シタルモノトス舊法ハ唯官吏ノ職務執行ニ付テノミ其規定ヲ設クルヲ以テ其保護ノ範圍極メテ狭ク其他公吏議員ニ對シテハ特別法アリ又議會並議員ノ保護ニ關シテハ明治二十二年法律第二十八號アリト雖モ未ダ一般ニ公務ノ執行ヲ保護スル法ナキヲ以テ本法ハ廣ク公務員ノ職務執行ノ安全及公務員ヲ保護スル目的ヲ以テ舊法ノ不備ヲ補ヒタリ又封印破毀罪ノ如キ是公務ノ執行ヲ妨害スル罪ノ一種ニ過ギザルヲ以テ之ヲ本章ニ加ヘタリ

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

註釋 舊法第三百二十九條ヲ修正シタル規定ニシテ官吏ニ關スル規定ヲ改メ廣ク公務員ニ關スルモノトナシタル外ハ同趣旨ニシテ唯舊法ハ職務執行ノ原因ヲ列舉シタルヲ删除シタルノミ本條第二項ノ一部ハ明治二十二年法律第二十八號第四條ノ規定ヲ修正補充シタルモノニシテ廣

ク公務員ニ關スル概括ノ規定ヲ設ケタリ

本章ノ罪ハ公務員ノ職務執行中其職務ニ對シテ之ヲ爲ス事ヲ要スハ無論公務員ヲシテ職務ノ執行中ト否トニ係ラズ公務員ノ資格ヲ以テ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシメ又ハ職ヲ辭セシムル爲メ暴行脅迫ヲ加ヘタル者亦同ジキナリ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

註釋 舊法第七十四條ヲ修正シタルモノニシテ舊法ハ封印ヲ破毀シタル場合ノミヲ規定シタルモ本法ハ之ヲ擴張シ封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞スル場合ハ勿論其ノ他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効ナラシメタル場合ニモ適用ス乃チ執達吏ガ差押ヲナシタル封印又ハ標示ヲ損壞スルハ勿論損壞セズトモ其封印ヲ施シアル器物中ノ物品ヲ他ノ方法ヲ以テ竊ニ取出シ封印ノ目的ヲ無効ニ歸セシムルガ如キ場合ヲモ含ムモノナリ

第六章 逃走ノ罪

舊法第二編第三章第三節中囚徒逃走罪ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ舊法ノ囚徒ナル語ハ二人以上ノ囚人タルコトヲ要スル如キ嫌アルヲ以テ囚人ト改ム、舊法ハ唯囚徒ニ關スル罪ノミ認ムト雖モ其自由ヲ剝奪セラレテ一定ノ設備中ニ拘禁セラル、者ハ必ズシモ囚人ニ限ラズ懲治場ニ留置セラル、者ノ如キ顯著ナル事例トス舊法ニヨレバ囚人逃走シタルトキハ之ヲ罪ト雖モ留置人同一ノ行爲ヲナシタルトキハ刑法上ノ責罰ヲ負擔セズ其他留置人ノ奪取、逃走幫助等ノ行爲ニ付テモ同一ナリ是事宜ニ適セザル事ト謂フ可シ本法ハ單純ノ逃走罪ハ囚人ニノミ之ヲ認ムト雖モ其他ノ罪ニ就テハ汎ク法令ニヨリ拘禁セラレタルモノニ付認ム尙現時囚人逃走ノ稍多キハ刑輕キニ過ギルモ亦其原因タリ故ニ此弊ヲ防止スル爲メ少ク刑ヲ重クシタリ

第九十七條 既決未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

已決未決ノ囚人ヲ併テ規定ス囚人トハ已決、未決ヲ問ハズ監獄ニ在ル可キ身分ノ者ヲ示ス、而シテ囚人タルコト、逃走ノ所爲アルコト、其ノ意思アルコトヲ要ス、逃走トハ獄舎ノ

門戸牆壁ヲ踰越脱出スルカ又ハ外役中監督官吏ノ腕力ヲ無効ニシ逃走スルガ如キモノナリ

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

舊法第四百二十二條第二項同第四十五條ヲ合ス而一層其適用ヲ大ニシ被拘禁者ニ付規定ス舊法ハ囚徒三人以上通謀シト規定アルモ本法ハ二人以上ト改ム是特ニ三人以上ノ場合ニ重クスルノ必要ナク二人以上ナルトキモ亦前條ニ比シ重キ刑ヲ科ス必要アリ而拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若ハ暴行脅迫シ又二人以上通謀シタルコト、之ヲ逃走ノ手段トシタルコトヲ要ス械具トハ例示バ連鎖、施錠、手錠ノ如キモノヲ云フ拘禁場損壞シトハ拘禁セラル、建造物ノ牆壁又ハ門扉内部監房ノ戸扉、鎖鑰天井床板タルニ論ナク之ヲ毀壞スルヲ云フ

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

奪取トハ他人ニ屬スル物件ヲ剝ギ取ルノ義ニシテ暴行ト脅迫トヲ問ハズ他人ニ暴行ヲ加

ヘテ囚徒ヲ奪ヒ取ルナリ

第百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本罪ハ第一法令ニ因リ拘禁セラレ、モノ第二器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタルコト第二拘禁セラレタルモノナルコトヲ知テ逃走セシムルノ意思アルコトヲ要シ器具トハ鋸、釘拔、梯子等ニシテ又戸扉ヲ開キ獄舎ヲ破壊シ若ハ監督官吏ノ間隙ヲ利用シ逃走シ得ルノ方法ヲ指導シ又暗ニ逃走セシムルノ意思ニテ戸扉ヲ開放シ置クガ如キハ則逃走ヲ容易ナラシムル行爲ニシテ而シテ此等ノ行爲ヲ爲シタルモノニシテ本罪ハ成立シ被拘禁者ノ利用シタルト否トハ已遂未遂ニ何等ノ關係ナシ

第百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者

ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

監督ノ職責アル者ハ職務上被拘禁者ヲ監護シ此ガ逃走ヲ防遏スルノ職責ヲ有ス故ニ懈怠ニ因リ被拘禁者ノ逃走ヲ覺ヘザルモ亦故意ニ之ヲ逃走セシメタルモ刑罰ヲ免レザルモノトス本罪ハ被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者タルコト、其護送スル被拘禁者ヲ逃走セシメタルコトヲ要シ而シテ司獄官、警察官、憲兵卒ノ如キガ看守又ハ護送セザルモノヲ逃走セシムルモ監護ノ職責ナキヲ以テ一個人トシテハ格別本罪ヲ構成セズ又本條ニハ逃走セシメタルトキハトアル故逃走セシメントシタルモ未ダ逃走シ了ラザルトキハ未遂犯ナリ

第百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本章ノ未遂罪モ罰スルノ必要ヲ認ムナリ

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

舊法第二編第三章第三節中罪人ヲ藏匿スル罪ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ舊法ハ本章ノ罪ニ對シ輕禁錮ヲ科スト雖モ往々盜賊ヲ使役シ不法ノ利得ヲ圖ル如キモノアルヲ以テ本法

ハ本章ノ罪ニ對シ懲役ニ處ス之ニ反シ單ニ知己老幼ヲ庇護スル爲メ犯シタルモノ、如キハ情狀極メテ輕キヲ以テ此等ノ犯人ニハ罰金ヲ料スコト、セリ

第二百二條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

釋義 本法ハ拘留又ハ科料ノミニ處スベキ罪ノ如キハ事態極メテ輕微ナルヲ以テ其犯人ノ藏匿又ハ隱避ハ之ヲ所罰ノ必要ナシトシ罰金以上ノ刑ニ處ス可キ罪ヲ犯シタルモノニ付テノミ本條ノ規定ヲ設ケタリ

本條ノ罪ハ藏匿又ハ隱避セシメタル所爲アルコト、藏匿又ハ隱避セシメタル者ハ罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ナルコト、上記ノモノナルコトヲ知テ之ヲ藏匿若ハ隱避セシムルノ目的アルコトヲ要ス犯人ヲ自己ノ家宅内ニ潜伏セシメ又ハ衣服容貌等ヲ變ゼシメ以テ其發見ヲ妨グルガ如キ則チ俗ニ所謂かくまふトハ藏匿ノ義ニシテ犯人ノ潜伏セントスル行爲ヲ援助シ犯人ニ旅費ヲ與ヘテ逃走セシメ若ハ隱匿スルニ適當ナル場所又ハ

方法ヲ示教スルガ如キハ隱避ノ義ナリ罪ヲ犯シタルトハ罪ヲ犯シタル嫌疑アルモノト云フ義ニシテ必シモ有罪ノモノト云フ意味ニアラズ拘禁中逃走シタルモノトハ不法ニ有形又ハ無形ノ拘禁線ヲ脱出シタルモノヲ云フ而テ未決已決ヲ區別セザル故何レノ場合ニモ本罪ヲ構成ス上記ノモノナルコトヲ知テ藏匿若ハ隱避セシムルノ目的アルコトヲ要ス故ニ之等ノモノナルコトヲ知ラザルトキハ勿論假令之ヲ知ルモ其ノ目的ナキ場合例バ餓渴又ハ疲勞ヲ憐ミ之ニ飲食ヲ爲サシメ又ハ一時休息セシメルガ如キハ決シテ本罪ヲ構成セズ

第二百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

釋義 舊法ハ單ニ罪證隱蔽ノ場合ノミヲ規定シ適用甚ダ狹キニ失スヲ以テ本法ハ之ヲ修正シ總テ人ノ刑事被告事件ニ關スル有罪若ハ無罪ノ證憑ヲ湮滅云々トシ廣ク其規定ヲ設ケタリ、本章ノ罪ハ湮滅又ハ偽造變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル所爲アルコト他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタルモノナル

コト他人ノ刑事被告事件ニ關スルモノナルコトヲ要ス蓋シ自己ノ罪證ト爲ル可キ物件ヲ隠匿スルハ自然ノ人情ナルガ故ニ之ヲ罰スルハ人情ニ非ラズト雖モ事他人ニ關スルトキハ假令其義俠ニ出ヅルモ一私人間ノ德義ハ公權ヲ侵害シテマデモ正當ニ存在スベキモノニ非ラザレバナリ、證憑ヲ湮滅スルトハ犯罪ノ痕跡ヲ失ハシムル所爲例バ罪證トナルベキ物件ノ上ニ印セル足跡又ハ血痕ヲ拭ヒ去ルガ如キヲ云フ而シテ他人ノ罪ヲ免レシムルノ目的アルコトヲ要シ自己ノ罪ヲ免レシムル目的ナルトキハ勿論前記ノ所爲アルモ本法ヲ構成セズ

第二百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利

益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

註釋 舊法第二百五十三條ト全ク同一趣旨ナリ唯舊法ハ廣汎ニ規定シタルモ本條ニ於テハ縱令被告又ハ逃走者ノ親族タリトモ被告人又ハ逃走者ノ不利益ノ爲メニ犯シタル場合ヲ明ニ除外シタリ犯人又ハ逃走者ノ親屬ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルモノナルトキハ蓋シ親屬間ニハ特ニ親密ノ關係アルヲ以テ其ノ所爲ハ自己ノ罪證ヲ湮滅スルト同一ニ看做ス可キモノナレバ其罪ヲ論ジテ刑ヲ科セザルナリ

第八章 騷擾ノ罪

註釋 舊法第二編第三章第一節ヲ修正シタルモノニシテ舊法ハ兇徒聚衆ノ罪トナシ兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ爲ス場合ノ規定ナリト雖モ唯其用語不當ナルノミ其趣旨ニ至リテハ廣ク内亂ノ目的ヲ除キ總テ其他ノ目的ヲ以テ多衆聚合シ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス場合ニ適用セントスルコト明白ナリ故ニ本法ハ其ノ趣旨ニ依リテ語句ヲ改變シタリ

第一百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

註釋 舊法第三百二十七條ノ修正ニシテ舊法ハ暴動ヲ例示シ又暴動ノ教唆者ヲ所罰スト雖モ共ニ

不必要トシテ削除セリ本條ノ罪ハ多數衆合シタルコト多數衆合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコトヲ要シ少數ノモノ、結合ニアラズシテ多數衆合シタルトキハ社會ノ治安秩序ヲ壞スルコト重大ニシテ暴行又ハ脅迫ノ所爲アルトキハ多數ヲ恃ミ暴徒的ノ行爲ヲナシ脅迫ヲ行フモノニシテ首魁ハ首領ニシテ其ノ發頭人ナル故ニ特ニ重ク處分ス又一方ノ將トシテ人ヲ指揮シタルモノ又ハ自ら率先シテ勢力ヲ助ケタルモノ又何等ノ意思ナクシテ唯無意味ニ雷同シタルモノ本條ノ規定ノ範圍ニヨリ處罰セラルベシ

第一百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多數衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス目的ニテ多數衆聚合シタルトキ當該公務員ヨリ説諭ヲ受ケテ解散シタルトキハ未ダ必シモ所罰スベキ程ノ實害ヲ生ゼザルガ故ニ之ヲ無罪トシ犯人ニ有利ナル規定ヲ設ケ以テ成ル可ク大事ニ至ラザラシメントノ政策ニ出デタルモノニシテ騷擾ノ所爲ハ多クハ犯人一時ノ憤情等ニ基因スルモノナルガ故ニ説諭ニ依リテ解散シ以テ大事ニ至ラザルコト

其例乏シカラズ故ニ陰謀、豫備、着手ヲモ包含スルモノニシテ官吏ノ説諭ヲ受ケテ解散セザルトキハ本條規定ノ範圍内ニテ處分セラル、ナリ

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

舊法ハ本章ノ罪ヲ以テ財産ニ對ス罪ト規定シタリ然レドモ放火失火ハ寧ロ靜謐ヲ害スル罪ニ屬スベキモノトシテ之ヲ本章ニ規定ス元來放火失火ハ我國ニ在テハ其數頗ル多ク其危害モ亦極メテ大ナルヲ以テ舊法ニ於テモ稍詳細ナル規定ヲ設ケタリト雖モ尙脫漏セルモノ尠少ナラザルノミナラズ其規定亦稍明瞭ヲ缺ク嫌ナキニアラザルヲ以テ本法ハ一方ニ其規定ノ趣旨ヲ明ニスルト共ニ一方ニ其不備ヲ補ヒタリ

第一百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

附則 本條ノ罪ハ火ヲ放テ燒燬シタルコト現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物等ナ

ルコト之等ノモノヲ燒燬スルノ意思アルコトヲ要ス而シテ目的物タル家屋物件ニ傳火ス可キ
 媒介物ニ火ノ移リタルトキ、家屋物件ニ傳火シタルトキ、危險ナル有様ニ陥リタルトキ乃燒
 失スベキ狀況ニ達シタルトキ、其原形ノ大部分ヲ失ヒタルトキハ燒燬シタルモノニシテ其目
 的物ノ存在ヲ亡失セシメタルコトヲ要ス亡失セシムルノ程度ニ至ラズンバ已遂トスルヲ得ズ
 而シテ現ニ犯人以外ノモノガ現在シ又住居ニ使用スルモノニシテ建造物トハ神社佛閣廳舎
 學校、博物館劇場倉庫等人ノ常住起臥以外ノ目的ニ於テ土地ニ定着シテ建造セラレタル家屋
 類似ノモノヲ云フ火ヲ放ツコト、燒燬スルコトノ意思アルコトヲ要ス故ニ直ニ消火セシムル
 ノ意思ヲ以テ人ヲ驚怖セシメンガ爲メ家屋ノ一部ニ放火シタル者ノ如キ實際之ヲ燒燬スルノ
 意思ナキモノハ本罪ヲ構成セズ意外ニモ燒燬シタルトキハ失火罪ヲ構成ス
 舊法ハ家屋船舶及汽車ノ燒燬ニ付テノミ規定スルヲ以テ本法ハ之ヲ擴張シ廣ク建造物、汽車
 船舶トシ更ニ電車鑛坑ヲ加ヘタリ是汽車ノミヲ保護シテ電車ヲ保護セザル可キ理由ヲ發見シ
 難ク鑛坑ニ至リテハ放火ノ危害却テ家屋ニ勝ルモノアルニ拘ハラズ不幸ニシテ往々實際ニ生
 ズル事實ナルヲ以テ其保護ハ刻下ノ急務タレバナリ又舊法ハ單ニ死刑ノミヲ科スト雖モ其刑
 ノ範圍狭キニ過ギ從テ其情狀輕キモノニ對シテモ尙無益ノ酷刑ヲ科スル結果ヲ生ジ現時其弊

害ニ困ムヲ以テ本法ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ情狀ニ應ジ其刑ヲ定メシムルコト、ナシタリ

第百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物

艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公

共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

舊法第四百三條第四百五條ノ第二項及第四百七條ヲ合シテ修正ヲ加ヘタルモノニシテ第

一項修正ノ理由ハ前條ト同シク但汽車電車ニ付テハ必要ナキニ付之ヲ除ク第二項ハ舊法第四

百七條ヲ修正シタルモノ舊法ハ家屋ニ關スル規定ノミヲ設クト雖モ是亦前條ト同一ノ理由ニ

因リ他ノ物ヲ加ヘタリ

條文ノ如ク現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ現在セザル建造物等ヲ燒燬シタルトキハ危害ノ程度

前條ト大ニ異ナルヲ以テ刑ノ範圍ヲ低下シ又自己ノ所有ナルトキハ損害ノ程度亦輕キヲ以テ

刑ノ範圍ヲ更ニ改ム而シテ自己ヲ損害セシメタルノミニテ他ニ損害ヲ加ヘザルトキハ刑ヲ科

セザルコト、シタリ

第一百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一項ハ舊法第四百四條及第四百六條ヲ合シ之ヲ擴張修正シタル規定ニシテ總テ前二條ニ記載シタル以外ノ物件ニ放火シ因テ公共ノ危險ヲ生ゼシメタル場合ニ關ス第二項ハ自己ノ處分權ノ行使トシテ其所有物ニシテ本條第一項ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル場合ニ於テハ多少靜謐ヲ害スト雖モ犯情ノ稍憐ム可キモノナキニ非ズ故ニ輕キ刑ヲ以テ之ヲ所罰シタルナリ

第一百十一條 第九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第八條又ハ第九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

當然他物ヲ燒燬スベキニ至ルベキコトヲ知リナガラ或物ヲ燒燬スルノ意思在ツテ放火シタルトキハ他物ヲ燒燬スルノ意思アルモノニシテ直接ニ放火シテ燒燬セントシタル物ト他物トヲ併セテ燒燬シタルトキハ已遂ノ併合罪ニシテ直接ニ放火シタル物ノミヲ燒燬シタルトキハ直接ニ放火シタル物ニ對スル已遂ト他物ニ對スル未遂トノ併合罪トス
本條ハ新ニ設ケタル所ニシテ第九條又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ之ガ爲メ延テ他人ノ物ヲ燒燬スルニ至リシ場合ノ規定トス但他人ノ物ヲ燒燬シタル場合ニ付其ノ第八條第九條第一項ニ記載シタル物ニ關スルト第九條第一項ニ記載シタル物ニ關スルトヲ區別シ其刑ニ差等ヲ設ケタリ

第一百十二條 第八條及ヒ第九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

舊法ニハ重罪タル放火罪ハ總則ノ適用ノ結果別ニ規定ヲ要セズシテ其未遂ヲ罰スト雖モ輕罪タル放火罪ノ未遂ハ之ヲ罰セズ本法ハ特ニ第八條第九條ノ罪ノ未遂ヲ罰スル必要ヲ認メタリ

第一百十三條 第八條又ハ第九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備

ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

建造物、艦船、鑛坑ノ如キハ人ノ住居若クハ現在スル處アリ且重要ナル財物ナルヲ以テ之ニ放火スルガ如キ重大ナル罪ハ其豫備行爲ヲモ罰シテ其危害ヲ未發ニ防遏スルコトヲ必要トスルナリ但情狀ニ因リ刑ヲ免除スルコトアリ

第百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

火災ノ際鎮火ノ妨害ヲ爲シタル罪ニシテ消防用具ヲ隱匿損壞若クハ其他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラズ鎮火ヲ妨害シタルヲ所罰スルモノニシテ舊法ニ缺如スル所ナリ本法ニ之ヲ補充シタリ

第百十五條 第百九條第一項及第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

自己ノ所有物ヲ燒燬スト雖モ若シ其物ガ差押ヲ受ケ又ハ物權若クハ賃貸借契約ノ目的物トナリ或ハ之ヲ保險ニ付シタル場合ノ如キハ之ニ因テ他人ノ權利ヲ害シ之ニ損害ヲ加フルコト恰モ他人ノ物ヲ燒燬スルニ均シキヲ以テ本法ハ新ニ本條ヲ設ケ他人ノ物ヲ燒燬シタル場合ノ例ニ準ジ彼我ノ權衡ヲ得セシメタリ

第百十六條 火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

過失ニ因リ火ヲ出シタルコト第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有物タル第百九條ニ記載シタル物件ヲ燒燬シタルコトヲ要シ注意スベキハ自己ノ所有物ナラザルコト、過失犯ニハ未遂犯ナキコトニテ所謂燒燬トハ前ニ説明スル如ク目的物ノ原體ヲ亡失セシムルノ程度ニ達シタルコトヲ要スルガ故ニ大事ニ至ラズシテ止ミタルモノハ無罪トス而テ依テ人ヲ殺傷シタルモノハ本罪ト過失殺傷トノ併合罪ナリ

第二項自己ノ所有物ニシテ第九條ニ記載シタル物又ハ第十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生ゼシメタル者ハ前項ニ同ジク所罰セラル、ナリ

第一百七條 火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生ゼシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

舊法第四百十條ノ修正シタルモノニシテ其趣旨ハ同一ニシテ火藥汽罐其他激發スベキ物ヲ破裂セシメタルコト、第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタルコト、之等ノ行爲ノ犯意アリタルトキハ放火ノ例ニ同ジク處罰シ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第十條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル場合ハ公共ノ危險ヲ生ジタル場合ニ限り罪ヲ構成シテ放火ノ例ニ同ジク處罰ス第二項ハ若シ之等ノ行爲過失

ニ出ヅルトキハ失火ノ例ニ同ジク處罰スルナリ本條ノ放火失火罪ト異ル所ハ犯罪ノ結果一ハ燒燬ナルモノハ損壞ナルニ在リ而シテ既遂未遂ノ區別ハ放火及失火罪ノ例ニ依ル

第一百八條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生ゼシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ノ規定ハ舊法ニ缺如スル所ニシテ第一項ハ瓦斯電氣又ハ蒸汽漏出ノ危險ヲ豫防スル目的ニ出デタル規定ニシテ此等ノ器具ヲ毀損シ又ハ其他ノ方法ニ因リ瓦斯電氣又ハ蒸汽ヲ漏出セシメ人ノ生命身體又ハ財產ニ危險ヲ生ゼシムル行爲ノ如キハ之ヲ不問ニ付ス可カラザルヲ以テ之ヲ本條ニ規定シタルモノトス第二項ハ前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルモノハ其情狀重クシテ之ヲ過失傷害罪トナスハ輕キニ失スルヲ以テ特ニ傷害罪ニ問フモノトセリ

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

舊法第三編第二章第八節決水ノ罪ヲ修正シタルモノニシテ本章ハ前章ト同シク靜謐ニ關スルモノトシ本章ニ規定シタルモノナリ舊法ニ決水ノ罪トアルヲ改メ溢水及水利ニ關スル罪ト爲シタルハ文字ノ修正シタルニ止リ趣旨ハ同一ナリ

第百十九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

舊法第百四十一條第一項ヲ修正シ電車及鑛坑ヲ加ヘ又刑ノ範圍ヲ廣クシタリ但死ニ致シタル場合ニアラザレバ死刑ニ處スルコトヲ得ザラシメタルハ刑ノ過酷ヲ避クル爲ナリ
 本章ノ罪ハ溢水セシメテ物件ニ浸害セシメタルコト現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物汽車電車若クハ鑛坑タルコト溢水セシメ上記ノモノヲ浸害セシムル意思アルコトヲ要ス溢水セシムトハ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルカ何等ノ方法ニ關セズ水ヲ導引シテ汎濫

セシムルコトヲ云フ而シテ前記ノモノニ水ヲ浸害セシメテハ人ノ生命ニ關スル重大ナルモノ故嚴罰スルモノナリ

第百二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

舊法第四百十二條ヲ修正シタルモノニシテ同條ニハ溢水ノ場合ヲ制限セルヲ以テ本法ハ例示ノ方法ヲ採ラズ概括ニ各場合ニ關スル規定ヲ設ケタリ而シテ公共ノ危險ヲ生ゼザルモノハ所罰ノ必要ヲ認めザルナリ

第一項ハ前條記載以外ノ物ヲ浸害シタル場合ヲ規定シ第二項ハ第百十五條ノ理由ニ同シ

第百二十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

水害ノ際防水ノ妨害ヲナシタルモノニシテ新ニ規定スル所ナリ第百十四條ニ同シ

第二百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第一百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第二百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ溢水セシメタル場合ヲ規定シタルモノナリ

第二百二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壊シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

舊法ニハ他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メト規定シ其目的ヲ明示スト雖モ不
必要ニ付本條ニハ之ヲ削除シタリ、堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壊ストハ其自身他人ガ水ニ依テ享
クル所ノ便益即チ財産上ノ利益ヲ損シ又之ヲ不正ニ獲得スルノ行爲ニシテ其自身水利ヲ害ス
ル行爲ナリ、其他水利ヲ妨害スル行爲ハ枚擧スルニ勝ヘズト雖モ水車ノ用ニ供スル水ヲ堰キ
止メテ其流通ヲ妨ギ隣ノ所有地ニ灌漑スル用水ヲ自己ノ所有地ニ引キ入ル、ガ如キヲ云フ

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

舊法ニハ船舶覆没ノ罪ヲ以テ單ニ財産ニ對スルモノト爲スト雖本法ハ放火及失火ノ罪、
溢水及水利ニ關スル罪ニ付テ説明シタルト同一ノ理由ニ依リ寧ロ之ヲ本章ニ規定スベキモノ
ト認め且專ラ往來通信ヲ妨害スルモノト爲シ本章ニ於テ其ノ規定ヲ設ケタリ舊法第百六十三
條及第百六十四條ハ之ヲ特別法ニ讓ル目的ヲ以テ第百六十七條ハ必要ナキニ付刪除ス本章中
ノ或罪ニシテ其過失ニ出テ之ヲ犯シタル場合ノ規定ハ舊法ノ缺如スル所ナルヲ以テ本法ニ於
テ補充シタリ

第二百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生
セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ
從テ處斷ス

舊法ニハ道路、橋梁、河溝、港埠ノ損壞ニ付規定セルヲ以テ本法ハ之ヲ改メ廣ク公共ノ

用ニ供スル陸路又ハ水路ト爲シ損壞ノ外尙壅塞ヲ加ヘ本條ノ適用ヲ完全ナラシメタリ第二項ハ舊法ト同一趣旨ニシテ因テ人ヲ死傷シタルモノハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從ヒ處斷スルナリ

第二百二十五條

鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ

電車ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者亦同シ

第二百二十六條

第一項ハ舊法ト同一趣旨ニシテ唯新ニ電車ヲ加ヘタルノミ第二項ハ舊法ニハ艦船往來ノ

危険トナル可キ方法ヲ列擧スレドモ本法ニ於テハ燈臺浮標ノ損壞ノミヲ例示シ其他ハ削除シタリ第一、二項トモ多數ノ生命財産ニ危害ヲ加フルコト重大ナルニ依リ重ク處罰スルナリ

第二百二十七條

人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無

期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百二十八條

本條ハ何レモ人ノ現在スル場合ニ限りタルハ本章ノ罪ハ往來ヲ妨害スル場合ノ規定ナル

故ニシテ舊法ニハ覆没ノ方法ヲ例示スト雖モ不必要ニ付之ヲ削除シ覆没ノ外更ニ破壞ヲ加ヘタリ第一項ハ汽車又ハ電車ノ顛覆又ハ破壞シタル者ノ規定ニシテ艦船ノ覆没又ハ破壞ト危險ノ程度ヲ同フスルヲ以テ艦船ヲ保護スルト同一ノ理由ニ基キ新ニ設ケタルモノナリ

第二百二十九條

第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ

破壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第二百三十條

第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壞

ヲ致シタルモノハ危害ノ程度亦重大ナルヲ以テナリ

第二百三十一條

第二百二十四條第一項、第二百二十五條及ヒ第二百二十六條第

一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十二條

舊法ト同一趣旨ニシテ本條ノ罪ハ未遂罪ヲモ處罰ノ必要ヲ認ムル故ナリ

第二百三十三條

過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメ

又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ舊法ニ規定ナキモノナルモ本法ニ於テ其必要ヲ認め本條ニ於テ規定シタルモノナリ第一項ハ常人ノ犯シタル場合ニ關シ第二項ハ業務ニ從事スルモノ、犯シタル場合ニ關スル規定ナリ

第十二章 住居ヲ侵ス罪

舊法ノ規定ハ狹隘ニ失シ住所ノ安寧ヲ十分ニ保護スルニ足ラザルヲ以テ稍其規定ヲ補充シ且本法ハ刑ノ範圍ヲ擴張セル結果舊法ノ如ク特ニ加重ノ情狀ヲ列記スルノ必要ヲ減シタリ

第三百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役

又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

舊法第七十一條第一項ノ晝間ノ二字ハ侵入ノ晝間ナルト又夜間ナルトニ依リ刑ノ輕重ヲ認ムル必要ナキ故本條ニハ之ヲ削除シタリ又同條ニ人ノ住居シタル邸宅云々トアル爲メ從來往々ニシテ狭ク其意義ヲ解シ人ノ住居トシテ借受ケタル室内ニ侵入シタル場合ヲ問ハザルコト、爲シ又從來艦船内ニ侵入スル罪ヲ規定セザルガ爲メ實際上不便ヲ感ジタルコト再々ナラザリシヲ以テ新ニ艦船ヲ加ヘタリ尙舊法ニハ唯侵入ノ行爲ヲ罰スルノミニシテ縱令正當ニ入りタルモノト雖ドモ要求ヲ受ケテ退去シタル場合ノ規定ナキヲ以テ實際上極メテ不備ヲ感ジタルヲ以テ本條ニ其規定ヲ設ケタリ

私家ノ安全ハ不可侵ナリ家宅ニ侵入スル所爲ハ其目的多クハ人ノ身體又ハ財産ニ對シテ害惡ヲ加ヘントニ在リ故ニ法律ハ特ニ私人ノ身體財産ヲ保護スル必要アリ憲法ニ於テ一私人ノ家宅ハ安ニ侵サル、コトナシトノ原則ヲ掲グルガ如シ

官吏ガ法律命令ヲ執行スル場合ノ如キ法律ガ特ニ許シタル場合ハ人ノ家宅ニ侵入スルコトヲ許ス、家宅侵入トハ事故ナク他人ノ家宅ニ侵入スル所爲ヲ云フ本罪ヲ構成スルニハ侵入ノ所爲アルコト退去セザルコト法律ニ規定シタル場所ニ侵入スルコト、正當ノ事故ナキコトヲ要

ス侵入スルコトヲ要スル故ニ一旦正當ノ理由又ハ家宅ヲ管理スル者ノ承諾ヲ得テ之ニ入りタル以上ハ假令管理者ノ意ニ反シテ止マルモ本罪ヲ構成セズ、住居トハ一時ト永久トニ關セズ邸宅内ニ寢食スル義ニシテ邸宅トハ牆壁ヲ以テ廻ラセル庭園ノ如キモ包含ス、看守スルトハ身體財産ノ安全ヲ保護スルヲ云フナリ

第二百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

何等ノ事故ナクシテ皇居、禁苑、離宮、行在所又ハ神宮、皇陵ニ侵入シタルモノ、處罰ノ規定ナリ

第二百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ノ罪舊法ニ缺如スル規定ナルガ本法ニハ其必要ヲ認メ之ヲ設ケタリ

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

舊法ハ秘密ニ關スル罪ヲ以テ誹毀罪ト爲スト雖モ元來秘密ヲ侵スコト、人ヲ誹毀スルコト、ハ其性質同一ナラザルヲ以テ本法ハ之ヲ分離シ別ニ本章ノ規定ヲ設ケタリ舊法第二百六十條ノ罪ノ外向信書其他ノ秘密書類ヲ保護スル規定ヲ新設シタリ

第二百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

信書其他秘密書類ヲ保護スルヲ目的トシ規定シタルモノニシテ舊法ニハ缺クル所ナリ唯信書ニ付テハ郵便條例二百二十三條ノ規定アリト雖モ信書ハ前章ニ於ケル住所ノ如ク憲法ニ於テ特ニ保障セラレタル權利ナルヲ以テ之ヲ本法ニ規定スルコトヲ相當ト認メタリ

第二百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上

取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

本條ニ規定セラレタル身分職業ヲ有スル者安ニ其職業ニ依テ知得シタル人ノ秘密ヲ漏告セシカ此等ノ者ニ依リテ利益ヲ受クベキ者ガ却テ害惡ヲ被ムルノ結果國家ガ一人ノ利益ヲ保護センガ爲メ特ニ之ヲ公許シタルノ目的ニ反スルモノナリ則故ナク他人ノ秘密ヲ漏告シテ一人ノ利益又ハ公益ヲ害スル場合ハ所罰スルノ必要アルナリ

本罪ヲ構成スルニハ犯人ニ於テ本條ニ規定シタル身分若クハ職業ヲ有スルコト故ナク其身分又ハ職業ニ因リテ知り得タル秘密ヲ漏泄シタルコト、秘密タルコトヲ知リナガラ之ヲ漏泄スルノ意思アルコトヲ要ス、秘密トハ被害者ガ他人ニ打明スコトヲ欲セザル總テノ秘密ヲ意味ス漏泄トハ他人ニ通知スルノ義ナリ而シテ言語、文書ニ因ルト、公然、秘密タルト、多人數若クハ一人ニ知ラシムルトニ區別ナク苟モ自己以外ノ者ニ知ラシメタル場合ヲ意味ス、秘密タルコトヲ知テ漏泄セバ茲ニ害ヲ生ズト同時ニ犯人ニ於テ之ヲ生セシメタリト云フヲ得ベシ故ニ秘密タルコトヲ知ルト之ヲ漏泄スルノ意思アルノミヲ以テ更ニ他人ヲ害セントノ惡意ナクトモ本罪ヲ構成スベシ

第二百二十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本章ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ論スヘキモノナリ

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

本章ノ罪ハ一般公衆ノ健康ニ關スル罪ニシテ一人ノ健康ヲ害スル罪ニアラズ舊法ニ比シ刑ヲ輕クシタルハ蓋今日ニ在テハ舊法編纂當時ノ如ク嚴ニ阿片煙ヲ取締ルノ必要之レ無キ故ナリ

第二百二十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙其物ヲ輸入、製造スルカ又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ニテ所持ナシタル者ヲ所罰スル規定ナリ

第二百二十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造等爲シタル者ニ處罰スル場合ノ規定ナリ

第二百二十八條

税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

税關吏ガ阿片煙又ハ之ヲ吸食スル器具ヲ輸入シタルカ又ハ其ノ輸入セントスル情ヲ知リ又ハ黙許シテ輸入スルヲ許シタル場合ノ規定ナリ

第二百二十九條

阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第一項ハ條文ノ通ニシテ第二項房屋ヲ給與シ利ヲ圖ルトハ清國ノ烟館ノ如キモノヲ云フ而シテ利ヲ圖ラザルモノハ前項ノ從犯トス

第二百四十條

阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

器具ヲ所持シタルモノトハ自己ノ爲ニ所有スルモノニシテ窃取又ハ拾得ノ場合ニハ窃盜及遺失物隱匿罪ヲモ同時ニ構成スルカト云フニ阿片煙ハ所有權ノ目的タルコトヲ得ザルガ故

ニ本罪ノミヲ構成スルナリ

第二百四十一條

本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本章ノ未遂罪モ所罰ノ必要ヲ認ムルナリ

第十五章 飲料水ニ關スル罪

公衆ノ健康ニ關スル犯罪ノ一種ニシテ舊法ニハ公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スル規定ナシト雖モ單ニ之ヲ一人ノ用ニ供スル淨水等ニ比スレバ其害ノ及ブ範圍極メテ廣キヲ以テ本法

ハ特ニ水道ニ關スル規定ヲ設ケタリ尙本章ノ罪ハ其結果頗ル重大ナルヲ以テ舊法ニ比シ一般ニ刑ヲ重クシタリ

第二百四十二條

人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

飲料ニ供スル井水、池水等ニ泥土、塵芥ヲ投ジ又ハ水底ヲ擾亂シテ之ヲ汚穢シ因テ用ユル能ハザラシムル所爲ヲ處罰スル規定ナリ

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シテ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スルモノニシテ其水道ニ因リ公衆ノ飲料ニ供スル淨水又ハ其水源ヲ汚穢シテ用ユルコト能ハザラシメタル場合ニシテ其結果公衆衛生上恐ルベク重大ナルガ故前條ヨリ處分ヲ重クシタリ

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

劇藥毒藥等總テ人ノ疾病ヲ醸スベキ有害物品ヲ淨水中ニ投入シテ因テ水質ヲ不良ナラシメ又ハ腐敗セシメタル場合ノ規定ナリ

第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷スルハ人ノ身體ニ害

ヲ生スベキ所爲ヲ爲シタルヨリ當然發生シタル結果ニシテ恰モ人ヲ歐打シ疾病死傷ニ致シタルト同一ナレバナリ且初メヨリ人ヲ殺スノ意思ヲ以テシタル時ハ純然タル殺人罪ナリ

第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十三條ト同ジク水道ヲ保護スルモノニシテ本法ハ飲用ノ淨水又ハ水源ニ毒物其他ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル場合及ビ是ニ因テ人ヲ死ニ致シタル場合ノ規定ナリ

第四百十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

亦前條ト同一ノ目的ヲ有シ本條ハ飲用ニ供スル淨水ノ水道ノ損壞又ハ壅塞ノ場合ノ規定ナリ

第十六章 通貨偽造ノ罪

舊法ハ通貨偽造罪ノ成立ニハ偽造又ハ變造ノ行爲ト行使ノ行爲トノ二要素ヲ必要トシ單ニ偽造ノ場合ニハ刑ヲ減輕スルコト、爲セリ然レドモ本法ニ於テハ通貨偽造ノ罪ハ通貨ノ偽造又ハ變造ノ成リタル場合ニ成立ス可キモノト爲シ從テ偽造又ハ變造ヲ罰スルコト、ナシタリ亦舊法ニハ貨幣ノ種類ヲ金銀貨及紙幣ト銅貨トニ分チ罪ノ輕重ヲ區別スト雖ドモ本法ハ不必要トシ此ノ區別ヲ廢シ又兌換銀行券ニ關スル規定ハ唯兌換銀行條例ニ在ルノミナルヲ以テ本法ハ茲ニ之ヲ收メタリ尙本罪幫助ノ場合ハ總則從犯ノ規定ヲ以テ足レリトシ自首ノ場合ハ總則自首ノ規定ニ讓リタリ

第四百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

註釋 偽造トハ寶貨以外ノ物件若クハ一旦寶貨ノ原體ヲ失ヒタル物件ヲ材料トシテ新ニ寶貨ニ酷肖シタルモノヲ製造スルヲ云ヒ變造トハ貨幣ノ外觀ヲ存シテ之ガ實價ヲ減殺シ以テ無垢ノ貨幣ト想像セシメ若クハ劣等ノ寶貨ニ鍍金着色其他凡テ詐僞ノ工作ヲ施シ以テ原寶貨ヨリモ高價ナル寶貨ノ外觀ヲ裝ハシムルモノ乃チ真正ノ寶貨ヲ利用シテ他ノ寶貨ヲ造出シタルモノヲ云フ

行使トハ他人ヲ欺キ真正ノ貨幣トシテ此ガ交付ヲ受ケシムルコトヲ意味ス故ニ偽造罪共犯ノ一人又ハ偽造貨幣タルノ情ヲ知ルモノニ交付スルガ如キハ茲ニ所謂行使ニ非ラズ、通用トハ事實上流通スルノ義、輸入トハ外國ヨリ我國土内ニ運ビ入ル、コトヲ云フ貨幣トハ價格交換ノ用ニ供スルモノタルヲ要ス故ニ金銀塊寶石ノ如キモノハ貨幣ニアラズ紙幣トハ法律ノ特ニ製造シタルモノタルヲ要ス故ニ信用手形ノ如キハ紙幣ニアラズ

本條ハ行使ノ目的ニテ內國ニ於テ強制又ハ任意ニ通用スル貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタルモノ又ハ之等ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シ若クハ輸入シタル場合ノ規定ナリ

第四百四十九條 行使ノ目的ヲ以テ內國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ

銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

本條ハ内國ニ流通スル外國ノ通貨ヲ偽造變造シタル場合ノ規定ニシテ外國貨幣ノ信用ヲ失墜スルノ害ハ内國貨幣ニ關スルガ如ク大ナラズ第二項亦同ジ

第一百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

收得トハ他ヨリ取り受クルノ義ニシテ行使ノ目的ニテ偽造變造ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル場合ノ規定ナリ

第一百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

處罰ノ必要ヲ認ムルヲ以テ前三條ノ未遂罪ヲ罰スルノ規定ヲ設ク

第一百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者

ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ料料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造タルヲ知テ之ヲ行使シ又ハ其ノ目的ヲ以テ人ニ交付シタル場合ノ規定ナリ

第一百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本章ノ罪ハ經濟上最モ重大ナル影響ヲ有スルヲ以テ其豫備ヲモ罰スルモノナリ之レ本條ノ趣旨ナリ

第十七章 文書偽造ノ罪

文書偽造罪トハ文書ニ憑テ文書ガ證明セント欲スル所ノ事實ノ眞實ヲ僞リ以テ害ヲ生セシムルノ所爲ニシテ、文書ニ憑ルコト、則文書ヲ作製シ又ハ増減變換シテ之ニ憑ルコト、事實ノ眞實ヲ僞ルコト、文書ガ證明セント欲スル所ノ事實ニ關スルコト、害ヲ生ジ得ベキコト害ヲ生ゼシムル意思アルコトヲ要ス

舊法ハ文書ノ偽造ノミヲ罰シ圖畫ノ偽造ヲ豫想セズト雖モ本法ハ文書偽造ノ罰ナル章目ノ下ニ廣ク文書若クハ圖畫ノ偽造罪ヲ規定ス舊法ハ本罪ノ成立ニハ原則トシテ偽造ノ行爲ト行爲トノ二要素ヲ必要トセリ從テ單ニ偽造シタルノミニテハ未ダ罪トナラズ本法ハ通貨偽造罪ニ於ケルト同ジク文書偽造罪ハ行使ヲ待タズシテ既ニ偽造ノ時ニ成立スト爲シ行使ノ有無ヲ問ハザルコト、シタリ舊法ハ官文書偽造ニ於テ單ニ官吏ニ關スル規定ノミヲ設ケルト雖モ本法ハ官吏ノミナラズ廣ク其他ノ公務員ニモ共通スル規定ヲ加ヘタリ舊法ハ公務員ガ其職務上虛偽ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ官ノ文書ヲ増減變換シタル場合ヲ以テ等シク官文書ノ偽造變造ト爲シタルモ本法ハ之ヲ改メ虛偽文書ノ作製又ハ文書ヲ不正ニ増減變換シタル罪ト爲シタリ舊法ハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメル場合ノ規定ナク唯近來實施セラレタル戶籍法等ニ之ニ關スル一部ノ規定アルノミナルヲ以テ本法ハ新ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ舊法ノ文書偽造罪ニ關スル規定殊ニ官文書ニ關シテハ刑ノ範圍狹キニ過ギ適用ノ際困難ヲ感ズルコトナシトセズ是ヲ以テ本法ハ充分ニ刑ノ範圍ヲ擴張シ裁判所ヲシテ情狀ニ因リ適宜ニ刑ヲ科セシムルコト、シタリ

第一百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書

其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

文書トハ文書ヲ記載シタル諸般ノ記録ニシテ或事實又ハ思想ヲ表示スルモノヲ云フ行使トハ詐僞ノ勞力ヲ加ヘタル物件則チ偽造又ハ變造シタル文書ヲ他人ニ提示シ之ヲシテ其確信ヲ誤ラシムルコトニシテ提示スルコトヲ要ス故ニ虛偽ノ主張ヲ確カメン爲メ之ヲ裁判所ニ提出スルモ亦行使ノ行爲ナリトス又目撃スルコトヲ得ベキ狀況ニ置クヲ以テ足レリトス故ニ官吏ガ官吏ガ偽造變造シタル帳簿ヲ一定ノ場所ニ備付ケタルガ如キモ亦之ヲ行使シタルモノト云フ而テ又運搬ノ爲メ運送人又ハ使者ニ交付シタルガ如キ單ニ形狀ヲ示シタルニ止マリ實質ノ對抗セズ從テ他人ノ審査力ヲ害セザルモノハ之ヲ行使ト云フヲ得ズ

詔書トハ 天皇ノ自ラ作製セラルベキ文書、敕書、敕諭、宸翰親翰其他名稱種々アリ 天皇ガ國家爲政ノ首長トシテ作製セラル、特別ノ文書ト單ニ 天皇ト云フ高貴ノ御身分ヲ以テ作

製セラル、一般ノ文書トノニアリ、御璽トハ、天皇ノ御印文ニ、天皇御璽トアリ、國璽トハ日本帝國ノ印文ニ大日本帝國璽トアリ其如何ナル場合ニ鈐セラル、モノナルヤハ明治十九年二月敕令第一號公文式第十四條以下ニ規定セリ

本條ハ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ行使ノ目的ヲ以テ偽造シタルモノ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタルモノ及ビ御璽國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル場合ノ規定ナリ

第一百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五十六條 第一項ハ公務所又ハ公務員ノ印章署名ヲ不正ニ使用シテ官吏公吏其他公務ニ從事スル職員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル此等ノ印章、署名ヲ使用シテ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル場合ニ關シ第二項ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル場合ノ規定トス第三項ハ前二項以外ノ手段ヲ以テ公務所若クハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ若ハ其作りタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル場合ニシテ本項ニ在ツテハ印章署名等ヲ使用スルコトナキヲ以テ犯行ノ結果重大ナラズ其情狀モ亦從テ輕キヲ以テ前二項ニ比シ其刑ヲ輕クシタルナリ

第一百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

本條ハ公務員ガ其職務ニ關シテ虚偽ノ文書ヲ作りタル場合及ビ不正ニ文書ヲ變造シタル場合ノ規定ナリ本條ノ場合ハ犯ニ易ク防ニ難ク職務ヲ汚辱シ國家ノ威信ヲ失墜スルガ故ニ刑モ亦重シ

第一百五十七條

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ(戶籍簿ノ如キ)權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ニシテ從來舊法ニハ之ノ規定ヲ缺キタル爲メ其解釋區々ニ分レ或ハ之ヲ文書偽造ニ問ヒ或ハ之ヲ無罪ト爲セリ本法ハ明文ヲ設ケ此等ノ疑義ヲ避ケルコト、爲シタリ第二項ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲

サシメタル場合ノ規定ニシテ是亦舊法ニハ其明文ヲ缺グヲ以テ之ヲ補修シタルモノトス前二項ノ未遂ノ場合ハ之ヲ所罰スルノ明文ヲ設ケタリ

第一百五十八條

前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本法ハ行使ノ目的ニ出デタル文書ノ偽造罪ヲ罰スルヲ以テ之ヲ行使シタルモノ、處分ヲ必要トスルノミナラズ其未遂罪ヲモ罰スルモノトシ本條ニ之ヲ規定シタリ

第一百五十九條

行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明

ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

舊法ハ賣買貸借、贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ト其餘ノ私書トニ區別スト雖モ本

法ハ之ヲ改メ總テ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書ト爲シタリ第一項ハ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ此等ノ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル場合、第二項ハ他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル此等ヲ文書若クハ圖畫ヲ變造シタル場合、合第三項ハ前二項以外ノ手段ヲ以テ偽造又ハ變造シタル場合ヲ規定トス

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

醫師ガ公務所ニ提出スル爲メ作ルベキ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ事實ニ反シタル虛

偽ノ記載ヲ爲シタル場合ノ規定トス

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ヲ所罰スルノ規定ニシテ其未遂罪ヲモ罰スルコトトセリ

第十八章 有價證券偽造ノ罪

本章ノ規定ハ舊法ノ官文書偽造及ビ私文書偽造中ヨリ有價證券ニ關スル部分ヲ抽出シ之ヲ合シテ一章トナシ多少ノ修正ヲ加エタルモノナリ本章ノ罪ハ特別ノ性質ヲ有スル流通證券ニ關スルモノニシテ普通ノ文書ト異ナル所アリ且主トシテ直接ニ財産上ノ利益ヲ目的トスルモノナルガ故ニ之ヲ他ノ文書偽造罪ト區別スルノ必要アリ又偽造ノミヲ以テ本罪成立ノ要件

ト爲シタル所以ハ前章文書偽造罪ニ於テ述ベタル所ニ同ジ

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

舊法第二百四條第二百九條ヲ合シテ修正シタルモノニシテ舊法ハ公債證書、地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ官文書トシ爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スベキ證書若クハ金額ト交換スベキ約定手形ヲ私文書トシ別節ニ規定ヲ設クレドモ本法ハ官私ノ別ヲ廢シ之ヲ本條ニ合シ公債證書等ニ關スル規定ヲ設ケタリ

舊法ニハ爲替手形ニ虛偽ノ裏書ヲナシタル場合ノミヲ想像シタルモ蓋シ狹キニ失ス故ニ本法ハ廣ク之ヲ虛偽ノ記入ヲナシタル場合トシテ時急ニ應ゼシメタリ又舊法ニハ本條ノ罪ニ輕懲役ヲ科スト雖モ蓋シ狹キニ失ス本法ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ情狀ニ因リテ適宜處罰スルノ自由ヲ與ヘタリ

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

前條ノ偽造券又ハ虛偽ノ記入ヲナシタル證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ニテ人ニ交付シ若クハ輸入シタル場合ノ規定ニシテ舊法第一百五十九條第六十二條ト同一ノ理由ニ基クモノナレドモ特ニ輸入シタル場合ニモ之ヲ適用スル所以ハ此等ノ物タル信用經濟ノ發達上殆ンド貨幣ノ代用ヲ爲スコトアリ無記名ノ證券ノ如キハ流通ノ點ニ於テ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ト異ナルコトナケレバ舊法第一百五十條ノ趣旨ヲ參酌シタリ

第十九章 印章偽造ノ罪

舊法第二編第四章中其第二節及其四節ノ私印偽造罪ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ修正ノ要點ハ官印偽造罪ニ付テハ舊法ハ各其偽造又ハ使用ノ行爲ヲ罰シタリ本法モ亦

印章偽造罪ニハ偽造ナル一行爲ヲ以テ成立ノ要件ト爲スコト舊法ト同一ナリト雖モ其偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ之ヲ文書偽造罪中ニ規定シ本章ニ於テハ單ニ印章ヲ偽造シ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セザル場合ノミヲ規定シタリ又舊法ハ私印偽造罪ニ付テハ偽造及ビ使用ノ二行爲ヲ以テ犯罪成立ノ要件トナスト雖モ本法ハ之ヲ改メ前ニ擧ゲタル如ク偽造ノミヲ以テ成立ノ要件ト爲シ使用ノ場合ハ官印ト等シク此ニ因テ文書ヲ偽造シタルトキハ之ヲ文書偽造罪トナシ單ニ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽造セザル場合ノミヲ本章ニ規定シタリ而シテ本章ニ於テ單ニ偽造ノ行爲ノミヲ以テ罪ノ成立要件トナシタルハ他ノ偽造罪ニ付改正ヲナシタルト同一ノ理由ニ出デタルナリ舊法第九十八條、第九十九條ハ特別法ニ規定スベキモノト爲シ之ヲ削除シタリ文書偽造罪ト同一ノ理由ニ依リ官印若ハ私印ノ規定ヲ擴張シ汎ク公務所公務員及一私人印章ニ關スル規定ヲ設ケタリ文章偽造罪ト同ジク舊法ハ印章偽造罪ノ刑ノ範圍狹キニ失スルヲ以テ之ヲ改メテ擴張シタリ又本法ハ本章ノ罪ヲ單ニ印章偽造ノ場合ニ限り從フテ之ヲ使用スルモ文書偽造ト爲ラザル場合ノミヲ規定スルヲ以テ其罪狀稍輕キ所アルガ故ニ一般ニ刑ノ程度ヲ低下シタリ

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ

二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第一項ハ舊法第九十四條ト同一趣旨ノ規定ニシテ偽璽ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ文書偽造罪トナシタルヲ以テ之ヲ削除シタリ第二項前段ハ舊法第九十七條中御璽、國璽盜用ノ規定ト全ク同一趣旨ナリ後段ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セザリシ場合ノ規定ニシテ亦偽造ト同ジク之ヲ罰スルナリ

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第一項ハ舊法第九十五條ト同一趣旨ノ規定ニシテ偽印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場

合ハ前條ト同ジク文書偽造罪ト爲シタルヲ以テ削除シタリ第二項前段ハ舊法第九十七條中
官印盜用ノ規定ト全ク同一ノ趣旨ナリ後段ハ偽造官印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セザリシ場合
ノ規定ニシテ前條第二項未段ノ規定ニ倣ヒ偽造ト同ジク之ヲ罰スルモノナリ

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以
下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタ
ル者亦同シ

第一項ハ舊法第九十六條ト同一趣旨ノ規定ニシテ舊法ハ產物、商品等ニ用ユル記號ト
書籍什物等ニ用ユル記號トヲ區別スト雖モ不必要ナルノミナラズ却テ釋解上混雜ヲ來ス虞ア
ルヲ以テ本法ハ此ノ區別ヲ廢シ一般ニ記號偽造ノ罪トナシタリ而シテ偽造記號使用ノ罪ハ前
二條ト同一ノ理由ニ基ツキ之ヲ削除シタリ第二項前段ハ舊法第九十七條記號盜用ノ規定ト
同一ニシテ後段ハ偽造シタル記號ヲ使用スルニ際シ文書ヲ偽造セザリシ場合ノ規定ニシテ記
號偽造ト同ジク之ヲ罰スルモノナリ

第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者

ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名
ヲ使用シタル者亦同シ

舊法第二百八條ト全ク同一趣旨ノ規定ニシテ偽造私印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタルトキ
ハ之ヲ文書偽造罪ト爲シタル爲メ之ニ關スル規定ヲ削除シタリ第二項後段ハ偽造シタル私印
ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セザル場合ノ規定ニシテ本法ハ之ヲ私印偽造ト同ジク處罰スルモノ
ナリ

第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六
條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

舊法第二百條ニ該當シ本章第六十四條乃至第六十六條ノ各第二項ノ未遂罪ハ之ヲ處
罰スル必要アレバナリ然レドモ單ニ偽造又ハ變造ノ未遂ヲ處罰スル必要ナキヲ以テ之ヲ除外
シタルハ舊法ト異ナル所ナリ

第二十章 偽證ノ罪

【舊法】 本章ハ舊法第二編第四章第六節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

修正ノ要點ハ刑事ニ關スル證人ト民事商事又ハ行政裁判ニ關スル證人トヲ區別スト雖モ是畢竟偽證シタル刑事ノ證人ニ對シ科スベキ刑ニ付キ詳細ナル區別ヲ爲シタル結果ニ過ギズ本法ハ次項ニ説明スル如ク刑事ニ關スル證人ノ偽證ニ科スベキ刑ヲ變更シタルヲ以テ刑事ト他ノ民事商事又ハ行政事件トヲ區別スル必要消滅シタリ是ヲ以テ司法裁判所ニ於テスルト行政裁判所ニ於テスルト又ハ他ノ特別裁判所ニ於テスルトヲ問ハズ證人トシテ偽證シタル場合ニ關シ同一ノ規定ヲ設ケタリ

舊法ハ刑事ニ關スル偽證ヲ分テ被告ヲ曲庇スル目的ニ出デタルト之ヲ陷害スル目的ニ出タルモノトニ區別シ其刑ヲ異ニシ又偽證ニ因リ被告人正當ノ刑ヲ免レタル場合ハ曲庇ノ刑ニ一等ヲ加重シ或ハ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル場合ニ在テハ反坐ノ刑ヲ科スル等罪ノ情狀ニ因リ細密ナル規定ヲ設クト雖モ爲メニ却テ適用上ノ不便ヲ來タシ疑義ヲ生ズルコト少ナカラズ本法ハ此弊ヲ避ケン爲メ總テ此等ノ情狀ハ之ヲ裁判所ノ認定ニ一任シテ適宜ノ刑ヲ科セ

シメント期シ此等煩雜ナル規定ハ全ク之ヲ除キタリ

舊法第二百二十五條ハ偽證ノ教唆ノ場合ナルヲ以テ本法ハ之ヲ總則ノ規定ニ讓ルコト、シ除キタリ

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

【舊法】 舊法第二百十八條乃至第二百二十三條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ已ニ其理由ヲ説明シタル如ク本法ハ刑事裁判所ニ於テスルト他ノ裁判所ニ於テスルトノ區別ヲ廢シ總テ之ヲ本條ニ規定シ又刑事ノ偽證ニ付テモ詳細ナル規定ヲ廢棄シ總テ裁判所ヲシテ情狀ニ因リ刑ヲ定メシムルコト、ナシタリ而テ本條ハ廣ク法律ニ依リ爲シタル故ニ司法裁判所、行政裁判所又ハ其他ノ裁判所ノ命ニ因リ宣誓シテ證人ト爲リタル者ガ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ノ規定ニシテ各種ノ情狀ヲ包含スル極メテ廣キ條文ナルヲ以テ其刑ノ範圍モ亦充分ニ之ヲ擴張シ裁判所ヲシテ自由ニ適宜ノ刑ヲ科セシムルコト、爲シタリ

第七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲

戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

舊法二百二十六條ノ趣旨ヲ少シ修正シタルモノニシテ舊法ハ其事件ノ裁判宣告前自首スルトキハ本刑ヲ免ズルコトヲ規定スト雖モ本法ハ其事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前被告人ガ偽證シタルコトヲ自白スレバ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ト改メタリ是レ一方ニ於テハ自首ヲ自白ト改メタルヲ以テ刑ヲ減輕スベキ場合ヲ多クシ又一方ニ於テハ自首以外ノ自白ニモ刑ヲ減輕スルヲ以テ其ノ減輕ノ程度ヲ減却シタルモノナリ法律ハ可成的犯人ノ悔悛ヲ促シ以テ害惡ノ生ゼザランコトヲ希望スルナリ

第一百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

舊法第二百二十四條ト全ク同一趣旨ノ規定ニシテ鑑定人又ハ通事ガ虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタル場合ノ規定ナリ

第二十一章 証告ノ罪

本章ハ舊法第三編第一章第十二節中証告ノ罪ノ規定ニ少シ修正ヲ加ヘタルモノニシテ舊法ニ於テハ人ヲシテ行政上ノ懲戒處分ヲ受ケシムル爲メノ証告ニ關スル規定ヲ缺クヲ以テ本法ハ其必要ヲ認メテ之ヲ補修シタリ又本章ハ主トシテ信用ニ關スルモノニシテ身體ニ對スルハ寧ロ本罪ノ結果ニ過ギザレバ本章ノ位地ヲ變更シタリ

舊法第三百五十七條ハ本法ニ於テ偽證罪ノ場合ニ被告人刑ニ處セラレタルト否トニ分タズ處罰ノ程度ハ一ニ之ヲ裁判所ノ認定ニ任ズルコト、シ因テ刑ノ範圍ヲ廣クシタルト同一ノ理由ニ基キ且本章ノ罪ハ偽證罪ノ例ニ因リ處斷スルヲ以テ舊法第二百二十一條及第二百二十二條ハ同ジク必要ナキヲ以テ之ヲ删除シタリ

第一百七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

舊法第三百五十五條ヲ修正シタルモノニシテ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル場合ノ規定ニシテ其處分ハ舊法ト同ジク偽證罪ニ依リ處斷スルコト、セリ

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

舊法第三百五十六條ヲ修正シタルモノニシテ自首ヲ自白ト改メ本刑ヲ免ズトアルヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ト改メタルハ共ニ第七十條説明ト同一ノ趣旨ニ基クナリ

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

本章ハ主トシテ舊法第三編第一章第十一節及第二編第六章中ノ第二百五十八條第二百五十九條ヲ合シテ少シク之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

舊法第二百五十八條ト同一趣旨ノ規定ニシテ淫事即チ男女異性間ノ結合姦姦、獸姦手淫等見ルニ堪ヘザル醜行又ハ婦女ヲ捕ヘテ其裳裾ヲ上グルガ如キモ猥褻ノ行爲ニシテ法律ハ一々例示セザルモ如何ナル程度ノ所行ヲ罰スベキカハ一ニ裁判官ノ認定ニ委スモノナリ而本罪ニハ未遂罪ナシ猥褻トハ或所爲ノ性質ヲ形容シタル語ナレバナリ公然トハ公衆ノ目撃シ得可

キ場所ニ於テスルヲ云フ舊法ハ本條ノ罪ニ罰金ヲ科シ本法ハ科料ヲ科スト雖モ本法ノ科料ハ舊法ノ罰金ト金額ニ大差ナシ

第七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

猥褻ノ事項ヲ記載シタル文書圖畫又ハ其他猥褻ノ物品ヲ頒布云々シタル場合ノ規定ニシテ舊法第二百五十九條ト同一ノ趣旨ニシテ修正ノ點ハ新ニ頒布ナル語ヲ加ヘ公然販賣スル外廣ク公衆ニ分ツコトヲ禁ジタリ又舊法ハ販賣シタルモノ云々トアリテ猥褻ノ圖畫物品ヲ販賣セザレバ之ヲ罰セズト雖モ將ニ販賣セントシタルトキモ亦之ヲ罰スル必要アルヲ以テ本法ハ改メテ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者云々ト爲シタリ刑ノ改正ハ前條ト同一ノ理由ナリ

第七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女

ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

暴行トハ有形ノ暴行ヲ脅迫トハ無形ノ暴行ヲ意味シ十三歳以下ノ者ニ對シテハ單ニ猥褻ノ行爲ヲ爲スノミヲ以テ罪ヲ構成シ十三歳以上ノ者ニ對シテハ暴行脅迫ヲ以テスルニ非ズンバ罪ヲ構成セザルハ前者ハ未ダ淫事ノ何事タルコトヲ知ラザルノミナラズ身體ノ發育不十分ナルカ故ニ假令暴行脅迫ヲ加ヘザルモ尙之ニ著大ナル損害ヲ生ゼシムベシト雖モ後者ハ單ニ道義ニ反スルノミニシテ著シキ損害ヲ生ゼシメザレバナリ舊法第三百四十六條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ十二歳ヲ十三歳ニ改メ又舊法ハ刑輕キニ失ス故ニ本法ハ刑ヲ重クシタリ

第一百七十七條

暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ

強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦

淫シタル者亦同シ

強姦トハ暴行脅迫ヲ用キテ被害者ノ抵抗力ヲ失ハシメ因テ姦淫即チ不正ナル男女兩性ノ交接ヲ爲シタルモノニシテ姦淫ノ手段トシテ暴行脅迫ヲ用キタルコトヲ要ス犯罪ノ客體ハ婦女ナリ強姦罪ノ已遂ハ常ニ犯人ガ情慾ヲ遂ゲタルコトヲ要ス

舊法第三百四十八條第三百四十九條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ本法ハ刑ヲ重クシタリ

第一百七十八條

人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ

喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタ

ル者ハ前二條ノ例ニ同シ

舊法ニ缺如スル所ニシテ本條ニ於テ之ヲ補修シタリ熟睡人事不省若クハ有形上身體ノ不自由ナルニ乘シタル場合ノ如キモ總テ本條ニ因リ所罰セラルベシ

第一百七十九條

前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

舊法ハ唯強姦ノ未遂罪ノミヲ罰スルモ本法ハ更ニ範圍ヲ擴張シテ本條ノ規定ヲ設ケタリ

第一百八十條

前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

舊法第三百五十條ト同ジク親告罪ノ規定ニシテ舊法ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待ツコト、爲スト雖モ本法ハ之ヲ改メ單ニ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ズト規定シ其告訴權ノ何人タリヤハ刑事訴訟法及民法ノ規定ニ依リ定メント期シ茲ニ明示セザルコト、セリ是レ親告罪ノ場合ニ一々明示ノ繁ヲ省クモノニシテ概ネ被害者又ハ其法定代理人ナリトス

第百八十一條 第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷シ
ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

舊法第三百五十一條ノ規定ト場合ヲ同クスト雖モ其趣旨ハ之ヲ修正シタリ舊法ハ本章ノ
罪ヲ犯シ強姦以外ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷シタルトキハ毆打創傷罪ニ比シ重キニ從テ處斷シ
強姦ニ因リ人ヲ死傷シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケタリ本法ハ強姦ニヨルト然ラザルトヲ區別セ
ズ前三條ノ罪ヲ犯シ依テ死傷シタルモノハ特ニ刑ヲ設ケタリ是通常ノ傷害ニ比シ其情重キモ
ノアルヲ以テナリ

第百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セ
シメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

舊法第三百五十二條ヲ修正シタルモノニシテ舊法ハ十六歲未滿ノ男女ノ淫行ノ勸誘媒合
ヲ處斷スト雖モ其趣旨稍廣キニ失スルヲ以テ本法ハ之ヲ改メ第一ニ營利ノ目的ニ出デタルモ
ノナルコトヲ要件トシ第二ニ淫行ノ常習ナキ婦女ノミヲ保護スルコト、爲セリ是營利ノ目的
ニ出デタルモノニ非ラザレバハ淫行ト爲ス必要ナク又男子ハ婦女ニ比シ之ヲ保護スベキ必要

少ナク且婦女ト雖モ平生品行善良ニシテ淫行ノ常習ナキモノ、ミヲ保護スルヲ以テ足レバナ
リ

第百八十三條 有夫ノ婦女姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦
シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ
告訴ノ效ナシ

舊法第三百五十三條ト全ク同一趣旨ニシテ犯罪ノ主體ハ有夫ノ婦ナルコト姦通ノ所爲ア
ルコトヲ要シ有夫ノ婦トハ戶籍面上ノ婦タルヲ云フ姦通トハ本夫以外ノ男子ト不正ノ結合ヲ
爲スコトヲ云ヒ縱容トハ許諾ノ義ナリ姦通罪ハ夫ノ名譽ニ關スル罪ナルガ故ニ法律ハ夫ノ名
譽ヲ保護シ家族間ノ關係ヲモ亦害セザランコトヲ希ヒ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ズルコト、
シタリ則チ告訴ハ夫ガ妻ニ對スル處罰ノ權能ナリ

第百八十四條 配偶者アル者重子テ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲
役ニ處ス其相婚シタル者亦シ

舊法第二百五十四條ト全ク同一趣旨ニシテ既婚者タルノ身分ヲ有シナカラ其婚姻ノ未ダ解除セザルニ先チ再ビ法律ノ規定シタル方式ヲ履ミテ他ノ男子又ハ女子ト結婚シタル者ハ本罪ニ因ル處罰セラルル而シテ姦通罪ト異リ夫妻共ニ之ヲ犯スコトヲ得亦親告罪ニアラズ而明文ナキモ相重婚者ハ勿論其他之ニ加効シタル者ト雖モ皆總則ニ因リ處罰セラルベシ

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

舊法第二編第六章中賭博及富籤ニ關スル規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

修正ノ要點ハ本法ハ賭博ニ關スル規定ヲ改メ常習トシテ之ヲ爲ス者ト否ラザルモノトニ分チ常習ト爲サル者ニ付テハ情狀ニ依リ罰金ヲ科スルコトヲ得ルモノト爲シタリ是常習ト爲サル博戲又ハ賭事ハ其犯情ノ稍隣察スベキモノアレバナリ

舊法第二百六十一條後段ハ總則從犯ノ規定ヲ適用スルコト、爲シ之ヲ刪除シ同條第二項モ亦必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シタリ

舊法ハ富籤ニ付唯興行者ニ關スル規定ノミヲ設ケ其他ハ之ヲ特別法ノ規定ニ讓リタルヲ以テ不便少ナカラズ故ニ本法ハ富籤ノ取次又ハ購買授受ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第一百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者

ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

舊法第二百六十一條ノ修正ニシテ其要點ハ舊法ハ單ニ博奕ヲ爲シタルモノハ云々ト規定スルヲ以テ解釋上疑義ヲ生ズルコトナキニアラズ之ヲ以テ本法ハ詳シク之ヲ規定シ偶然ノ輸贏ニ關シテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ト改メ疑義ヲ避ケタリ次ニ舊法ハ現ニ博奕ヲ爲スニ非ラザレバ罪ト爲ラズトノ解釋行ハレ極メテ不便ヲ感ズルヲ以テ本法ハ現ニ二字ヲ削リ此ノ弊ヲ濟ヘリ又舊法ハ其但書ニ於テ飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニアラズト規定シタル爲メ遂ニ飲食物ヲ以テ金錢ニ代用スルコト行ハル、ニ至レリ是ヲ以テ本法ハ此點ヲ改メ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタルモノハ此限ニアラズト規定シ飲食物ト雖モ金錢ニ代用シタル場合ノ如キハ之ヲ罰シ飲食物ニアラズト雖モ單ニ娛樂ニ供スル物ナルトキハ之ヲ罰セザルコト、爲シ其ノ認定ハ全ク之ヲ裁判所ニ一任シタリ

第一百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役

ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一項モ亦舊法第二百六十一條ノ趣旨ヲ修正シ新ニ設ケタル規定ニシテ舊法ハ常習トシテ賭博ヲ爲スモノト否ラザルモノト區別セズト雖モ本法ハ之ヲ區別シ本條ニ於テ常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ノ規定ヲ新設シタルナリ而シテ本項ノ罪ハ前條ト異リ其害弊頗ル大ナルヲ以テ重ク之ヲ罰スルコト、セリ第二項ハ舊法第二百六十條ト全ク同一趣旨ナリ

第一百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

富籤トハ二人以上ノ者ノ財物ヲ醜集シテ財團ヲ作り更ニ抽籤ノ方法ニ依リ其財團ノ全部又ハ一部ヲ不平等ニ出資者ニ分配シ依テ出資者ノ或者ガ利益ヲ僥倖シ他ノ者ガ損害ヲ受クルコトヲ云フ

第一項ハ舊法第二百六十二條ト全同一ノ趣旨ニシテ唯文字ノ修正ニ止マル第二項ハ明治十五年第二十五號布告第一條ノ富籤賣買ノ牙保ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ牙保ノ文字ヲ取次ト改メタルナリ第三項ハ富籤ヲ授受シタル者ノ所罰ノ規定トス

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

本章ノ規定ハ舊法第二編第七章及第二百六十三條ヲ合シテ修正シタルモノナリ

第一百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
說教禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

舊法第二百六十三條 同一趣旨ニシテ神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シテアリテ場所ヲ示サ、ルモ神祠等ノ在ル現場ニ於テ苟モ人ノ尊敬又ハ歸依スベキ神佛等ニ對シテ尊嚴又ハ功德ヲ汚瀆スルノ意思ヲ以テ公然不敬ト判定スベキ行為ヲナシタル場合ノ規定ニシテ刑行ノ文書圖畫等ニ依リ他行ニ於テ行ハル、モノハ本罪ヲ構成セズ第二項ハ說教禮拜ノ外葬式ヲ加ヘ舊法ノ不備ヲ補修シタリ則言語動作等ニ依リ說教禮拜葬式等ヲ現在其場所ニ於テ妨グル場合ナリ舊法ハ刑輕キニ失ス故ニ之ヲ重クシタリ

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

舊法第二百六十五條 全ク同一趣旨ノ規定ナルモ本條唯墳墓ヲ發掘シタル行為ノミヲ罰シ死體等ヲ露出、遺棄若クハ毀損シタルモノ、場合ハ之ヲ他條ニ規定ス

第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

舊法第二百六十四條 修正シタルモノニシテ舊法ハ唯死屍ニ付テノミ規定ヲ設クレドモ本條ハ之ニ遺骨、遺髮其他棺内ニ藏置シタル物ヲ加ヘ毀棄ヲ改メ損壞遺棄又ハ領得ト爲シ其

不備ヲ補修ス又舊法ハ埋葬スベキ死屍トアレドモ死體若クハ遺骨ハ埋葬ス可キ物ト否ラザルモノト區別スルノ必要ナシ故ニ之ヲ删除ス

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十九條ノ罪ヲ犯シ 因テ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル場合ノ規定ニシテ同條ト相牽連セル行為ニ關スルモノナリ

第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

溺死、縊死等ノ如キ變死シタルモノハ其ノ死體ヲ檢案シテ死因ニ異狀ナキヤ否ヤヲ確ムルノ必要アリ故ニ當該官吏ノ檢視ヲ經テ埋葬スベキコト、セリ

第二十五章 瀆職ノ罪

註釋 本章ハ舊法ハ二編第九章官吏濫職罪中其第二節、官吏人民ニ對スル罪ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ要點ハ舊法ハ唯官吏ノ職務ニ關シテノミ規定ヲ設ケタルヲ以テ其範圍極メテ狭ク實際上不便少ナカラズ故ニ本法ハ之ヲ改メ廣ク公務員ノ濫職ニ關スル規定ヲ設ケ以テ本章適用ノ範圍ヲ廣ク爲シタリ舊法第二百七十七條第二百七十九條第二百八十三條ハ共ニ他ノ特別法ノ法令ニ規定スベキモノト爲シ之ヲ删除シタリ

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

註釋 本條ハ公務員ノ濫職罪ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第二百七十六條ニ該當ス只刑法ノ官吏ナル語ヲ公務員ト改正シ廣ク官吏公吏ハ勿論法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ含マセシニ過ギズシテ其主旨ハ同一ナリ畢竟公務員ノ職權濫用ヲ罰シテ人民ノ權利ヲ強固ニシタルナリ而シテ本條職權ヲ濫用シタルヲ以テ職權濫用スルニ非ズシテ單ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ他人ヲシテ義務ナキコトヲ爲サシメ又ハ行フベキ權利ヲ妨害シタルトキハ他ノ罪トナルハ格別本條ノ罪トナラズ又人ヲシテ或ル行爲ヲ爲サシメ又ハ或行爲ヲ妨害スルコトヲ要スルヲ以テ此等ノ行爲不行爲ヲ爲サシムルニアラズシテ單ニ財産上ノ損害ヲ醸サシムルガ如キ亦タ本條ヲ以テ處斷ス可キニ非ズ

第九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

註釋 本條ハ職權濫用ニ依ル逮捕監禁罪ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第二百七十八條ニ該當ス舊刑法ハ逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ守ラズシテ人ヲ逮捕又ハ不正ニ監禁シタルヲ新刑法ハ其趣旨ヲ擴張シ廣ク裁判檢察又ハ警察ノ職用ニ改メタリ裁判トハ公判判事豫審判事ヲ云ヒ檢察トハ檢事及ビ檢事代理等ヲ云ヒ警察トハ司法警察官及ビ行政警察官ヲ云フ又之ヲ補助スル者トハ巡查憲兵卒ノ如キヲ云フ又舊刑法ハ監禁日數十日ヲ加フル毎ニ一等ヲ加フルコト、セルモ新刑法ハ之ヲ廢シ換フルニ刑ノ範圍ヲ廣クセリ

第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シ

タルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

本條ハ職權ヲ行フニ當リ刑事被告人ヲ陵虐スル行爲ヲ罰スル規定ニシテ舊刑法第二百八十條及ビ第二百八十二條ニ該當ス唯第二百八十條ノ衣食衣服ヲ屏居シトアルハ畢竟陵虐ノ例示ニ過キズトシテ之ヲ删除シタルト第二百八十二條ノ罪狀ヲ陳述セシムル爲メト云フガ如キ暴行又ハ陵虐ヲ加フルノ遠因ヲ示ス必要ナリトシテ之ヲ删除シタルニ止マリ其趣旨ハ同ジク刑事被告人ヲ保護シタルナリ蓋シ昔時ハ刑事被告人ハ殆ンド其權利ヲ認メラレズ甚ダシキ陵虐ヲ加ヘラレシモノナルモ斯ノ如キハ文明ノ思想ニ背馳スルモノトシ方今刑事被告人ノ權利ヲ保護スルニ努ム本條モ亦タ其ノ一ナリ而テ第一項ハ汎ク裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者ニ付テ規定シ第二項ハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守若クハ護送スル者ニ付テ規定セリ

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪

ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ノ罪ヲ規定ス

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賂賄ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス前項ノ場合ニ於テ收受シタル賂賄ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

本條ハ收賄罪ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第二百八十四條ヲ修正シタルモノナリ其修正ノ要點ヲ擧グレバ(一)舊刑法ハ官吏收賄ノ場合ノミヲ規定セシモ本法ハ公務員又ハ仲裁人ニ關スル規定トシタリ故ニ普通ノ者即チ官吏公吏又ハ其他ノ職員ニアラズト雖モ仲裁ノ職務ヲ取ル者ニ於テ賂賄ヲ收受シ又ハ要求シ若クハ約束シタルトキハ本條ニ依リ罰セラルベシ(二)舊刑法ハ賂賄ヲ聽許シトアリシヲ其語妥當ナラズトシ之ヲ約束シト改メ(三)又賂賄ニ因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル場合ノミヲ規定セシヲ本法ハ尙ホ相當ノ行爲ヲ爲サル場合ヲ加ヘタリ

第二項ハ收受シタル賄賂ノ全部若クハ一部ヲ沒收ス若シ之ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其價格ヲ追徴スルコトヲ規定シ犯人ヲシテ不法ノ利得ヲ爲サシメザルト同時ニ前項規定ノ主旨ヲ貫クコトニ努メタリ

第百九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ヲ罰セリ

公務員又ハ仲裁人ノ收賄ヲ防遏スルコト甚ダ困難ナリ故ニ法律ハ之等ノ相手方タル賄賂ヲ交付又ハ提供若クハ約束シタル者ヲモ處罰シテ成ル可ク其弊害ヲ矯正セザル可カラズ然ルニ舊刑法ハ本條ノ如キ條文ナカリシヲ以テ斯ル者ノ處罰ニ關シ屢々論議ノ種トナリシヲ以テ新刑法ハ明文ヲ設ケタリ

第二項ハ自首減輕若クハ免除ノ特典ヲ與ヘテ賄賂收受ノ弊害ヲ減少セントスルノ主旨ニ基ク

第二十六章 殺人ノ罪

本章ノ規定ハ舊刑法第三編第一節及ビ第五節ヲ合シテ之ヲ修正シタルモノナリ

第百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ刑死又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ殺人罪ニ付テ規定ス

舊刑法ハ殺人罪ニ付テ謀殺故殺毒殺其他種々ノ殺人罪ノ區別ヲ設クト雖モ新刑法ハ之ヲ改メ本條一條ヲ以テ總テ殺人罪ヲ處斷ス可キコト、セリ

今少シク之ヲ分解説明セン

一 殺害罪トハ囑託ヲ受ケズシテ他人ノ生命ヲ破壊スル行爲ヲ謂フ

故ニ生命ヲ有スル人ノ存在ヲ要スルヤ勿論ナリ茲ニ於テ人トハ何ゾヤノ問題ヲ決セザル可カラズ人トハ生命ヲ有シナガラ母體ヨリ分離スラ云フ故ニ刑法上保護セラル可キ人タルニハ二ノ條件ヲ具備セザル可カラズ即チ母體ヨリ分離スルコト及ビ生命ヲ保持シテ分

離スルコト是レナリ故ニ胎兒ハ人ニアラズ生命ヲ失ヘルモノ亦タ人ニ非ズ之ヲ破壊スルモ殺人罪ヲ構成セザルヤ明カナリ

二 殺人罪ハ他人ノ生命ニ關スルコト

故ニ自己ノ生命ヲ破壊スル行爲ハ殺人ニアラズ自殺ナリ

三 殺人罪ハ囑託ヲ受ケズシテ他人ノ生命ヲ破壊スル行爲ナルコト

殺人罪ニハ他人ノ囑託ヲ受ケズシテ其ノ生命ヲ破壊スルコトヲ必要トセルハ他ナシ若シ囑託ヲ受ケテ殺人行爲ヲ爲セバ特別ノ罪トナシ本條ヲ適用セズ

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ關スル殺人罪ヲ規定ス

本條ハ舊刑法第三百六十二條ヲ修正シタルモノニシテ新ニ配偶者ヲ加ヘタリ畢竟自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ハ之ヲ尊重シ孝養ヲ盡サル可カラザルニ之ヲ殺害スルガ如キハ背倫ノ極ト言ハザル可カラズ是レ本條ヲ設ケ普通殺人ヨリ重ク罰スル所以ナリ

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ一二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

凡テ犯罪ハ豫備ヲ罰セザルヲ原則トス然レドモ殺人罪ノ如キ重大ナル犯罪ハ成ルベク未然ニ之ヲ處罰シテ其防止ヲ企圖セザル可カラズ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條前段ハ自殺幫助ニ關スル規定ナリ

自殺ハ罪トセズ蓋シ之ヲ罰セントスルモ自殺ヲ希望スル者ニ對シテハ如何ナル刑モ之ヲ嚇スル能ハズ然レドモ自殺ノ教唆又ハ幫助ハ罰ス可キモノトセリ前述ノ如ク自殺ヲ罰セザルハ畢竟事實上罰スル能ハザルガ故ニ之ヲ罰セザルニアリテ法律ハ之ヲ是認シタル行爲ニアラズ故ニ自殺ヲ教唆スルガ如キ又若クハ之ヲ容易ナラシムル幫助ノ如キ背徳ノ行爲ハ之ヲ罰ス可キモノトセリ

本條後段ハ承諾若クハ囑託ヲ受ケテ行ヒタル殺人罪ヲ規定ス

人ノ生命ハ合意ヲ以テ與奪シ得ベキモノニアラズ假令承諾若クハ囑託ヲ受ケタリト雖モ其殺人罪ヲ無罪ト爲ス能ハザルヤ明カナリ唯普通ノ殺人ニ比シテ多少恕ス可キ點アルヲ以テ本條ハ之ヲ輕ク處罰ス可キコト、セリ

第二百三條 第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

畢竟之等ノ未遂ハ危害大ナルガ故ニ之ヲ罰スルニアリ

第二十七章 傷害ノ罪

本章ハ舊刑法ノ毆打創傷ノ罪ヲ改メテ傷害ノ罪トセシニ外ナラズ毆打創傷ナル語ノ穩當ナラザルハ爭フ可カラザル事實ナリ故ニ新刑法ハ傷害ナル文字ヲ以テ彼ノ毆打以外ノ方法ニヨリ又ハ外部ニ創傷ヲ生ゼズシテ傷害ヲ蒙ラシメタル場合ノ如キヲ凡テ包含セシムルコト、セリ

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下

ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ傷害罪ヲ規定ス

傷害トハ手若クハ手ニ握持セル物ヲ以テ他人ノ身體ニ接觸セシムル行爲ハ勿論電氣ニ感ゼシムルガ如キ又ハ劇藥ニ觸レシムル行爲其他蹶ル行爲突キ倒ス行爲他物ニ突キ當ラシムル行爲ハ凡テ傷害ナリ

舊刑法ハ殺人罪ニ於ケルガ如ク傷害罪ニ付テモ種々ノ傷害罪ヲ規定セリ即チ普通傷害罪豫謀傷害罪犯罪ヲ犯スニ便宜ニスル目的ニ出デタル傷害罪犯罪ニ付キ訴追ヲ免カル、目的ニ出デタル傷害罪ヲ規定スルモ其區別ノ必要ナラザルヤ明カナリ故ニ新刑法ハ此區別ヲ廢シ本條ヲ以テ凡テノ傷害罪ヲ處斷ス且ツ舊刑法ノ毆打創傷ナル語ノ妥當ナラザルヲ以テ之ヲ改メタルハ前ニ述ベタル如シ

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上

ノ懲役ニ處ス

本條ハ傷害致死ヲ規定ス

本條ハ舊刑法第二百九十九條ト同一趣旨ナリ蓋シ傷害罪ハ一種ノ結果犯ナリ他人ヲ傷害スル意思アリテ傷害シタル結果其者ヲ死ニ致シタル場合ハ即チ本條ニ依リ處斷スベキモノニシテ始メヨリ殺人ノ意思ヲ以テ他人ニ傷害ヲ加ヘ因テ人ヲ死ニ致シタル場合ハ第二百條ニ從ヒ處斷セラル可シ

本條第二項ハ第二百條ト同一趣旨ニシテ舊刑法第三百六十三條ヲ修正シ配偶者ノ直系尊屬ヲ加ヘシナリ

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ら人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ傷害幫助罪ヲ規定ス

本條ハ舊刑法ノ規定セザル所ニシテ新刑法ノ創設ニ係ル規定ナリ蓋シ自カラ人ヲ傷害セズト

雖モ現場ニ於テ其勢ヲ助ケタル者ハ間接ニ傷害罪ニ加巧シタルモノニ外ナラズ然レドモ下手者ニ較レバ其情輕キモノト認メ特ニ本條ニヨリ處斷ス可キモノトス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

本條ハ共同傷害ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第三百五條ト同趣旨ナリ

傷害罪ハ結果犯ナルヲ以テ下手者ハ各其加ヘタル傷害ニ從テ其罪責ヲ負ハザル可カラズ從テ二人以上ニテ他人ヲ傷害シタル場合ニ於テ其與ヘタル傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハズ又ハ其傷害ヲ生ゼシメタル者ヲ知ルコト能ハザルトキハ如何ニシテ其罪責ヲ定ムルヤ疑ヒナキ能ハズ是レ本條ヲ設ケ共同者ニアラズト雖モ共犯ノ例ニ依リ各自同一ノ刑ヲ科スルコトハセリ

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ傷害ヲ生ゼザル傷害罪ヲ規定ス

暴行ヲ加フルモ人ヲ傷害セズトハ單純ニ毆打スル場合ニシテ舊刑法第四百二十五條第九號ノ違警罪ニ相當ス而シテ本條犯罪ハ輕微ナルヲ以テ職權訴追ノ犯罪トセズ告訴ヲ俟テ罰ス可キモノトセリ

第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ過失傷害ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第三百十八條ニ該當ス舊刑法ハ過失ハ疏忽懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セザルコトヲ必要トセルモ新刑法ハ斯ル文字ヲ必要ナラズトシテ之ヲ删除セリ

過失トハ認識セザルベカラザル義務アル事項ヲ認識セザルヲ云フ例ヘバ人ノ生命ヲ奪フガ如キ又人ニ傷害ヲ與フルガ如キコトハ刑法ノ嚴ニ罰スル所ニシテ各人ノ知ラザル可カラザル事項ナリ然ルニ過失ニヨリ人ヲ死ニ致スガ如キ假令殺人ノ意思又ハ傷害ノ意思ナシト雖モ過失者ニ於テ全然無責任トナス能ハズ是レ刑法ガ過失罪ヲ規定スル所以ナリ

第二項ハ過失傷害罪ハ輕微ナル罪ナレバ告訴ヲ俟テ始メテ處罰ノ必要ヲ認ムルモノトセリ

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ過失殺人罪ヲ規定セルモノニシテ舊刑法第三百十七條ニ相當ス

過失殺ハ過失傷害ニ比シテ其刑ヲ重クシ又職權訴追ノ犯罪トセリ

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ業務上注意ヲ爲ス特別ノ義務アル者ノ過失傷害罪ヲ規定ス

蓋シ業務上特別義務アル者ノ過失ハ其特別義務ニ背キタル制裁トシ且ツ其過失ノ結果ハ甚大ナルモノナレバ法律ハ重ク罰スルナリ例ヘバ汽車ノ信號手ガ過失ニ因テ危險ノ信號ヲ爲サズ爲ニ汽車ヲ顛覆セシメタル場合ノ如キハ本條ニ依リ處罰セラル、ナリ而シテ舊刑法ハ此規定

ヲ缺如セルヲ以テ新刑法ハ之ヲ補ヘリ

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ墮胎罪ヲ規定ス

墮胎トハ人爲的ニ胚胎ヲ排斥セシムル行爲ヲ云フ或ハ墮胎トハ人爲的ニ胚胎ヲ排斥セシムルニ因リ其生存ヲ失ハシムル行爲ナリト唱ヘ或ハ胚胎ヲ人爲的ニ排斥セシムルモ排斥セラレタル胚胎ガ生存ヲ有スルトキハ之ヲ墮胎ニ非ズト論ズル者アリト雖モ是レ穩當ノ論ニアラズ所謂墮胎トハ人類類似ノ形態ヲ具フルト否トヲ問ハズ分娩期ニ先チ胚胎ヲ排斥スルヲ謂フ墮胎セシムル方法ノ如何ヲ問ハズ即チ母體ノ外部ニ對シ墮胎ノ行爲ヲ施スト内部ニ對シテ之ヲ施スト又藥物ヲ用ヒルト其他ノ方法ヲ用ヒルトヲ問ハザルナリ

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ施ス可キ墮胎罪ヲ規定ス

婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシムルガ如キ者ハ多ク墮胎ノ方法ヲ熟知スルヲ以テ之ヲ行フハ容易ニシテ其弊害ハ婦女自身ガ墮胎スルヨリモ重ケレバ之ヲ重ク罰セルナリ本條ハ舊刑法ノ缺點ヲ補正シタル條文ナリ

第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ一定ノ職業ニ従事スル者ノ墮胎罪ヲ規定ス

本條列記ノ者ハ墮胎罪ヲ容易ニ施シ得ベキ地位ニ在ルヲ以テ法律ハ之ヲ重ク罰シテ其犯行ヲ豫防セントスルニアリテ舊刑法第三百二十二條ト同一規定ナリ若シ之等ノ者ガ墮胎ヲ行フテ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ尙ホ一層重ク罰スルナリ

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【註釋】 本條ハ婦女ノ囑託ヲ受ケズ又ハ承諾ヲ得ズシテ墮胎セシメタル場合ノ罪ヲ規定ス
蓋シ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎罪ヲ犯スハ多少恕スベキ點ナキニ非ズト雖モ其囑託若クハ承諾ナキニ拘ハラズ墮胎セシムルハ危險甚ダ大ナルモノト云ハザルベカラズ是レ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第二項ハ本條墮胎罪ハ他ノ墮胎罪ニ比シテ危險大ナリトシテ其未遂ヲ罰スルコト、セリ

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

【註釋】 本條ハ前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害罪ト比較シ其何レカ重キニ從テ處斷スルコト、セリ

第三十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

【註釋】 本條ハ遺棄罪ヲ規定ス

遺棄トハ遺シ棄ツルト解スベキガ如キモ刑法上ノ意味ハ斯ル單純ナル意味ニアラズ蓋シ遺棄ナル者ノ法律上ノ觀念ハ他人ヲ保護スル義務アル者ガ其義務ヲ免カル、目的ヲ以テ之ト隔離スルヲ謂フ故ニ遺棄ナル語ハ被遺棄者ノ居所ヲ變更スル行爲例ヘバ棄兒ノ如キ又ハ遺棄者自身ガ他ニ居所ヲ移ス行爲俗ニ所謂置去ノ如キモ包含ス

本條遺棄罪ハ扶養ヲ免カル、目的ニ出デタルコトヲ要ス而シテ扶養ノ義務アル者ハ民法上當然義務ヲ負擔スル者ナルト又契約上之ヲ負擔スル者タルトヲ問ハズ

第二百十八條 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以

下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ老者幼者又ハ病者ヲ保護スベキ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササル場合ノ罪ヲ規定ス

舊刑法ハ第三百三十八條ニ於テ給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者ガ被保養者ヲ遺棄スル罪ヲ規定スルモ給料ヲ受ケテ保養ス可キ義務アル場合ニ制限スルハ妥當ナラズトシ本條ハ廣ク老者幼者不具者又ハ病者ヲ保護スベキ責任アル者ト改正セリ故ニ給料ヲ受クルト否トヲ問ハズ保護ノ責任アル者ハ總テ本條遺棄罪ノ主體トナル又之等ノ者ヲ保護スル責任アル者ガ假令遺棄セザルトモ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ本條ニ依リ處斷スベキコトトセリ

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ意義明瞭説明ヲ俟タズ

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ逮捕監禁罪ヲ規定ス

人ノ自由モ亦タ一個ノ法益ナリ故ニ之ヲ妨グル者アラバ之ヲ罰セザル可カラズ逮捕トハ俗ニ所謂捕縛スル如キ場合ハ勿論必ズ繩ノ如キ物ヲ以テ束縛スルヲ要セザル可シト雖モ直接ニ身體ニ對シテ何等カノ抑制ヲ加ヘ其自由ヲ制限スルコトヲ要ス監禁トハ一定ノ場所外ニ出デザラシムルヲ謂フ即チ逮捕ト異ナリ直接ニ身體ニ對シテ何等ノ抑制ヲ加ヘズシテ其行動ヲ制限スルコトヲ云フ

本條ヲ終ルニ迄ンデ一言セザル可カラザルコトアリ他ナシ本條「不法」ニ人ヲ逮捕監禁シ云々トアリテ不法ニアラズシテ適法ナルトキハ罪トナラザルコトヲ明言ス蓋シ刑法上處罰ス可キ行爲ハ凡テ不法ナルコトヲ要スルヤ言フ俟タズ然ルニ本條ニ限り不法ナル文字ヲ加ヘシハ畢竟法文ノ體裁ヨリ出デシニ外ナラズ即チ人ヲ逮捕監禁シタル者ハ云々ト規定スレバ人ヲシテ奇異ノ感ヲ抱カシムルヲ以テ特ニ不法ノ二字ヲ冠シタルナリ

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ一讀明瞭ナルヲ以テ説明ヲ省ケリ

第三十二章 脅迫ノ罪

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

本條ハ脅迫罪ヲ規定ス

脅迫トハ不法ニ害惡ヲ表示シ他人ニ對シテ畏怖ヲ生ゼシムル行爲ヲ云フ左ニ脅迫ニ付キ少シク説明セン

第一 脅迫ニハ害惡ヲ表示スルコトヲ要ス害惡ハ被脅迫者若クハ其親族ニ對シ其生命身體自由名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フベキコトヲ表示スルニアリテ(一)其脅迫ノ實行ガ脅迫者ノ實行ノ範圍内ニアルト否トヲ問ハズ故ニ地震戰爭ヲ發生セシメ以テ生命身體等ヲ害ス可シト告知スルモ脅迫タルコトヲ失ハズ(二)害惡ガ即時ニ生ジ得ベキモノタルト否トヲ問ハズ例ヘバ舊惡ヲ告發ス可シト告知スルガ如シ

第二 脅迫ハ相手方ヲシテ畏怖ノ念ヲ生ゼシメタルト否トヲ問ハズ脅迫ヲ加フルモ被脅迫者ニ於テ畏怖ヲ生ゼザルモ脅迫罪ノ既遂ニシテ犯人ニ於テ其希望ヲ遂ゲタルト否トヲ問ハズ

第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可

キユトナ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キユトナ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ脅迫ヲ加ヘ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル場合ノ處分ヲ規定ス

本條ハ義務ナキ事ヲ爲サシメ又ハ權利ヲ行使スルヲ妨害スル者ヲ罰スル規定ナルヲ以テ假令脅迫ヲ加フルモ義務アル行爲ヲ爲サシメ權利ヲ行フニアラザル行爲ヲ妨グルモ罪トナラズ例ヘバ人ヲ脅迫シテ債務ノ辨濟ヲ爲サシメ又ハ債權ナキニ金錢ヲ取り立テントスル行爲ヲ妨害スルモ罪トナラズ

本條第一項ハ被脅迫者自身ニ對スル害惡ノ表示ニシテ第二項ハ被脅迫者ノ親屬ニ對スル害惡ノ表示ヲ規定ス

舊刑法ハ脅迫罪ヲ以テ親告罪トセルモ本條ハ職權訴追ノ罪トセリ

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下

ノ懲役ニ處ス

本條ハ略取誘拐罪ヲ規定ス

本條ハ未成年者ヲ略取誘拐スルヲ以テ成年者ニ對シテハ犯罪構成セズ蓋シ未成年者ハ概シテ智慮淺薄ニシテ人ノ奸計ニ陥イリ易ク之ガ爲ニ不測ノ危害ヲ蒙ルノ虞レアルヲ以テナリ而シテ未成年者タルニ於テハ男兒タルト女子タルトヲ區別セズ
略取トハ暴行又ハ脅迫ニ依リ強制的ニ場所ヲ移サシムル行爲ニシテ誘拐トハ欺罔ニ依リ任意的ニ場所ヲ移サシムルヲ云フ

第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ營利猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル場合ヲ規定ス

前條ハ略取又ハ誘拐ノ目的ノ如何ヲ問ハズ例ヘバ未成年者ヲシテ名所舊蹟ヲ縱覽セシメ以テ其見聞ヲ博カラシメント欲スルガ如キ善意ニ出デタル場合ト雖モ亦々處罰セラル、ナリ而シテ本條ハ略取又ハ誘拐ハ營利猥褻又ハ結婚ノ目的ニ出デタル場合ヲ規定ス是等ノ場合ハ善意ノ略取又誘拐ニ比シテ其罪責重キヲ以テ從テ本條ヲ設ケ其刑ヲ重クセリ

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

本條第一項ハ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ノ略取又ハ誘拐シタル場合ニ關スル犯罪ヲ規定ス

舊刑法ハ本條ノ規定ヲ缺クト雖モ外國トノ交通ガ日ニ月ニ其頻繁ヲ加フルニ從ヒ此種ノ犯罪ガ益多キヲ加フルト且ツ帝國外ニ移送セラル、ニ於テハ容易ニ我法權ノ保護ヲ受クル能ハザル地位ニ立ツヲ以テ嚴ニ之ヲ防遏セザル可カラズトノ主旨ヲ以テ新ニ本條ヲ規定ス
本條第二項ハ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者ヲ處分スル規定ニシテ是レ亦々新刑法ノ新ニ設ケタル規定ナリ

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シ若クハ隱匿シ又ハ隱避セシメタル者ヲ罰スル規定ナリ

本條第一項ハ舊刑法第三百四十三條ヲ修正シタル規定ナリ同條ニハ略取誘拐セラレタルコト

ヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者云々トアルモ略取誘拐セラレタル者タルコトヲ知ラズシテ收受シタル行爲ガ罪トナラザルハ明カナリ故ニ本條ハ略取誘拐者タルコトヲ知テトノ語ヲ删除シ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シト規定ス

本條第二項ハ營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ特ニ重ク處罰セリ

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ効ナシ

本條ハ本章ノ略取誘拐罪若クハ之等ニ關スル罪又ハ賣買罪國外移送罪ノ中ニ於テ職權訴訟ノ罪ト告訴ヲ待テ訴訟ス可キ罪トニ別ツコトヲ規定ス即チ如何ナル罪ヲ職權訴訟ノ罪トシ

又ハ之ヲ告訴ヲ俟テ罰スベキ罪ト爲セシヤト云フニ本章規定ノ中ニテ

第二百二十六條ノ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル罪並ニ同條ノ罪ヲ犯ス者ヲ幫助スルノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル罪及ビ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ以テ職權訴訟ノ罪ト爲シ其他ノ罪ヲ以テ告訴ヲ待テ訴訟ス可キモノトセリ然レドモ告訴ヲ俟テ論ズベキ場合ハ營利ノ目的ニ出デザルコトヲ要ス若シ又被拐取者又ハ被賣者ガ犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非ザレバ告訴ヲ爲スモ其效ナシトセリ

第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

本條ハ誹毀罪ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第三百五十八條ニ相當スルモノニシテ其趣旨

モ同一ナリ誹毀罪ハ名譽ニ對スル罪ナリ故ニ誹毀罪ヲ説明スルニ當テハ先ツ名譽ノ何タルヲ説明スルノ必要アリ蓋シ名譽トハ他人間ニ於テ敬重セラル、事實ヲ謂フ換言スレバ社會ノ團員間ニ於ケル人的價值ナリ故ニ誹毀罪ハ被害者ガ他人ヨリ尊重セラル、狀況ヲ害スル行爲ヲ謂フト解セザル可カラズ

誹毀罪ニハ公然事實ヲ摘示セザル可カラズ公然ナルニ於テハ其手段ノ如何ヲ問ハズ即チ公然ノ演說ヲ以テ誹毀シタルト書類圖書ニ依ル公然ノ發表ナルト殺劇偶像ニ依ル公然ノ發表タルトヲ問ハズト雖モ必ズ其手段ハ事實ヲ摘示セザル可カラズ事實トハ要スルニ總テ事物ノ規狀ヲ謂フ故ニ唯意見ヲ發表スルガ如キハ未來ノ事物ヲ語ルハ事實ニ非ズ而シテ本條ノ罪トナル事實ハ其性質上他人ヲシテ不利益ノ批判ヲ爲サシムベキ事實ナラザル可カラズ

本條第二項ハ死者ニ對スル誹毀罪ハ誣罔ニ出ヅルニアラザレバ之ヲ罰セズトセリ故ニ眞實ノ事ヲ摘示シタル場合ハ罪トナラズ抑モ死者ニ對スル名譽毀損罪ハ何人ガ被害者ナルヤ議論ノ別ル、所ナルモ遺族ノ名譽ヲ毀損スルモノトセザル可カラズ何トナレバ死者ハ人ニ非ズ名譽毀損罪ノ客體トナルコト能ハザルヤ明カナリ而シテ之ガ名譽ヲ毀損セラル、ニ當リ適切ノ苦痛ヲ感ズルハ其遺族ナレバ之ヲ以テ其被害者トセザル可カラズ

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ハ事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ亦タ罪トナルベキモノトセリ即チ本條ハ事實ノ摘示ヲ要セザルモ名譽ヲ毀損スル犯罪タル以上ハ公然ノ侮辱ガ被侮辱者ニ社會上ノ利益ノ批判ヲ蒙ラシムル程度ニ達スルコトヲ要ス本條モ亦公然タルヲ要スルヲ以テ公然ナラザルニ於テハ如何ニ侮辱ヲ加フルモ罪トナラズ

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ名譽ヲ毀損スル罪ヲ以テ告訴ヲ俟テ論ズ可キモノトセリ蓋シ誹毀罪ハ主トシテ一人ノ感情如何ニ繫ル如何ニ名譽ヲ毀損セラル、モ恬然知ラザルガ如キ者アリ斯ル場合ニ法律ガ進ンデ所罰スルノ必要ナシト看做シタルニ外ナラズ

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ

若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ他人ノ業務ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ又ハ人ノ信用ヲ毀損スルノ目的ヲ以テ虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用イタル者ヲ罰スルコトヲ規定スルモノニシテ畢竟舊刑法ノ第二百六十七條乃至第二百七十二條ヲ修正シタルモノナリ

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

本條ハ威力ヲ用イ人ノ業務ヲ妨害スベキ罪ヲ規定ス
威力トハ前條ノ偽計ニ對スル語ニシテ他人ニ暴力ヲ加フルハ勿論脅迫シタル場合モ包含ス

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百二十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ竊盜罪ヲ規定ス

財物トハ廣義ニ於テ動産不動産ヲ云フハ勿論ナルモ竊盜ノ目的物タル財物ハ動産ヲ指スニ外ナラズ動産トハ土地及ビ其定着物ニアラザル有體物ヲ謂フ

(イ) 有體物ナラザル可カラズ

故ニ債權ノ如キ著作權商標ノ如キハ竊盜ノ客體トナラズ併シ無記名債權ハ動産ト看做ス

(ロ) 土地及ビ其定着物ニアラザルコト

土地及ビ其定着物ハ不動産ニシテ動産ニアラス

竊取トハ他人ノ所持ヨリ自己ノ所持ニ移スヲ謂フモノニシテ自己ノ所有ニ移スコトヲ要セズ又他人ノ所有物タルコトヲ要セズ只他人ノ監守スル所ノ物タルニ於テ足ル

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ産財上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ竊盜罪ヲ規定ス

第一項ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ヲ強盜トセリ故ニ強盜罪ノ成立ニハ財物ヲ盜取スルノ方法トシテ暴行又ハ脅迫ヲ用ヒルコトヲ要ス暴行トハ直接人ノ身體ニ加フル威力ニシテ脅迫トハ被脅迫者ノ心裡ニ畏怖ヲ加フルヲ云フ故ニ強盜ト竊盜ノ分ル、所ハ唯財物ヲ盜取スルノ手段ヲ異ニスルニ過ギズシテ其被害物體即チ法益ハ是レ亦タ動産ナラザル可カラズ唯第二項ニ於テ少シク本條第一項ノ主旨ヲ擴張シ前項ノ方法ヲ以テ廣ク財産上不法ノ利益ヲ得又他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者モ亦タ強盜トセリ

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

強盜罪ハ社會ニ與フル危害大ナルヲ以テ法律ハ其豫備ト雖モ之ヲ罰シテ成ル可ク未然ニ防グコトヲ努ム

第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

本條ハ準強盜罪ヲ規定スルモノニシテ舊刑法第三百八十二條ト同一趣旨ニシテ逮捕ヲ免

カレ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行強脅ヲ爲シタル場合ヲ加ヘタルノミ強盜ハ前條ニ規定スル如ク暴行又ハ脅迫ヲ以テ財物ヲ盜取スルノ手段トセザル可カラズ故ニ財物ヲ得タル後ニ至リ其返還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ嚴格ニ云ヘバ強盜ニ非ズト雖モ執拗ニ其財物ヲ保持セントスルノ念ニ至リテハ暴行脅迫ヲ以テ財物盜取ノ手段ト爲スト相擇バズ是レ本條強盜ヲ以テ論ズル所以ナリ

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

本條ハ人ヲ昏醉セシメ其財物ヲ竊取シタル罪ヲ規定ス其主旨ハ舊刑法第三百八十三條ト同一主旨ナリ

昏醉セシムル方法ハ酒類ナルト藥類ナルトヲ問ハズ一時精神ノ知覺ヲ失ハシムルヲ云フ

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ強盜傷害罪ノ規定ニシテ舊刑法第三百八十條ニ相當ス

強盜トハ其強盜タルト進強盜タルトヲ問ハズ凡テ強盜ノ着手以上ノ行為ヲ爲シタル者ヲ云フ故ニ強盜行為ニ着手シテ未ダ遂ゲザル者又ハ既ニ強盜行為ヲ終了シタル者ハ共ニ茲ニ所謂強盜ヲ爲ス者ナリ

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役

ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ強盜強姦ヲ規定スルモノニシテ舊刑法三百八十一條ニ該當ス

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ

因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

本條ハ自己ノ財物ニ對シテモ亦タ強竊盜罪ノ成立スルコトヲ規定スルモノニシテ舊刑法ノ詐欺取財ニ關スル第三百九十三條ト同一主旨ナリ舊刑法ハ詐欺取財ノ章ニ於テ本條ト類似ノ規定ヲ設ケタリト雖モ盜罪中ニ此規定ヲ缺ケリ故ニ本條ハ之ヲ補充シタリ畢竟之等ノ物ハ自己ノ財物ニハ相違ナキモ自己ノ處分權ノ幾分ヲ制限セラル、ヲ以テ、權ニ自己ノ意思ニ從ハ

シムル能ハズ

第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃

至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條列記ノ犯罪ハ重大ナルヲ以テ其未遂ヲ處罰スルコト、セリ

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ

第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ

親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

本條ハ竊盜罪ヲ犯セル者ニ免刑スベキ場合及ヒ竊盜罪ヲ親告罪トスルコトアル場合ヲ規定ス

本條第一項ハ直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免刑スルハ畢竟法律ハ此等親族間ノ情誼ヲ酌ミタルニ外ナラズ例ヘバ親子ノ間ニ於テ竊盜ヲ爲スモ十中八九其處罰ヲ望マザルハ人情普通ノ狀態ナリ故ニ法

律ハ其刑ヲ免ズルモノトシ其他ノ親族又ハ家族ニ係ル場合ハ親告罪トセリ

第二項ハ前項ノ身分アル者ト共ニ犯セル者ニ付テハ其刑ヲ免ゼズ又ハ親告罪トセザルコトヲ明カニス

要之本條ハ舊刑法第三百七十七條ト同主旨ナリ

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

本條ハ電氣ハ財物ト看做スコトヲ規定ス是レ舊刑法ニ規定ナカリシヲ本法新ニ規定セリ前ニ述ベタル如ク盜罪ノ目的タル物ハ動産タラザル可カラザルヨリ電氣ハ果シテ物ナリヤ否ヤノ疑問ヲ生ジ從來論争ノ種子タリシナリ蓋シ電氣ハ物ニアラズシテ力ナリトノ説ハ方今略一定セルガ如シ而シテ電氣ハ刑法上之ヲ保護スル必要ナル言ヲ俟タズ況ンヤ日ニ月ニ社會ハ電氣ノ需用ヲ感ジ其財産上ニ於ケル價值亦タ大ナリ故ニ法律ハ之ヲ盜罪ニ付テ財物ト看做スト規定シ併セテ從來ノ疑問ヲ解釋セリ

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ詐欺取財ヲ規定ス

本條ノ罪ノ成立ニハ欺罔ナルコト、其欺罔ガ財物騙取ノ手段トナリタルコトヲ要ス

欺罔トハ他人ヲシテ人、物、又ハ事實ヲ錯誤セシメタル行爲ヲ謂フ例ヘバ甲者ヲ乙者ト欺罔ハ人ニ付テノ欺罔ニシテ甲ナル山林ヲ賣ラント稱シテ乙ナル山林ヲ買ハシメタルガ如キハ物ニ關スル欺罔ニシテ賣ルノ意思ナクシテ賣ル可シト稱スルハ事實ニ付テノ欺罔ナリ本條財物騙取ノ手段タル欺罔ハ以上何レニ關スルヲ問ハザルナリ而シテ欺罔行爲ハ何等制限ヲ設ケザルヲ以テ苟モ人、物、事情ヲ錯誤セシメントスル行爲ナレバ單純ノ虛言ナリトモ之ヲ欺罔セントスル行爲ナリト云フコトヲ得ベシ

財物ヲ騙取シタルコトヲ必要トス舊刑法第三百九十條ハ財物若クハ證書類ヲ騙取シト規定セ